取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

TABLE OF CONTENTS

目次

メーカーオプションのオーディオ、ナビゲーションシステムに関わる装備などは、別冊「ナビゲーションシステム取扱書、5.8 型ディスプレイ付オーディオ取扱書」をお読みください。

TABLE OF CONTENTS | 目次

3 室内装備の使い方

4 お手入れのしかた

5 トラブルが起きたら

5-1. まず初めに

5-2. 緊急時の対処法

6 車両の仕様

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

さくいん

略語一覧

五十音順さくいん

症状別さくいん

外観

ワイパー P. 130
方向指示灯 P. 106
車幅灯 P. 125
ヘッドライト（ロービーム）P. 125
ドアミラー P. 51
ボンネット P. 200
方向指示灯 ＊ P. 106
BTO00AH001
ヘッドライト（ハイビーム）P. 125
フォグライト ＊ P. 129

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

運転席 SRS エアバッグ P. 64
シフトレバー P. 100
小物入れ P. 179
助手席アッパーボックス P. 174
助手席 SRS エアバッグ P. 64
シートベルト P. 43
ヘッドレスト P. 42
A
B
グローブボックス P. 174
パーキングブレーキ P. 107
フロントシート P. 39
SRS サイドエアバッグ ＊ P. 64
カップホルダー ＊ P. 177
アームレスト ＊ P. 185
BTO00AH003

A

サンバイザー（助手席）P. 181

バニティミラー（助手席）* P. 182

パーソナルライト * P. 172

ルームライト P. 172

インナーミラー P. 50

SRS カーテンシールドエアバッグ * P. 64

サンバイザー（運転席）P. 181

バニティミラー *（運転席）P. 182

BTO00AH004

B

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

インストルメントパネル

A

▶ オートエアコン ＊

シートヒータースイッチ P. 188

AUTO
A/C
MODE
88.8
TEMP
OFF
PASSENGER
HI
LO

リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 168

BT000AH007

▶ マニュアルエアコン ＊

0 1 2 3 4
A/C
PASSENGER

リヤウインドウデフォッガースイッチ P. 168

BTO00AH008

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書、5.8 型ディスプレイ付オーディオ取扱書」を参照ください。

B

車間距離切りかえスイッチ ＊ P. 135

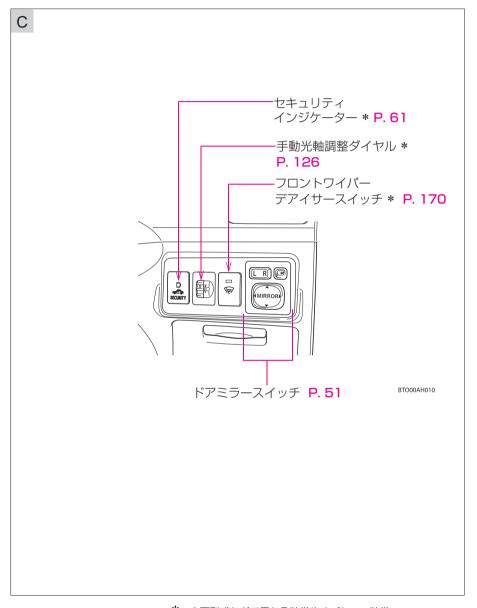
トークスイッチ※

電話スイッチ※

エンジン（イグニッション）スイッチ P. 97
（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

レーダークルーズコントロールスイッチ ＊ P. 132

BTO00AH009

C

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備
※：別冊「ナビゲーションシステム取扱書」を参照ください。

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。
そのため、お客様のお車にはない装備の説明が記載されている場合があります。
また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。
トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様のお車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

● トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。

● 車高を落としたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故をおこし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

● ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルにはＳＲＳエアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

● 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・ タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換。
異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・ 電装品・無線機などの取り付け、取りはずし。
電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

● フロントガラス、および運転席・助手席の窓ガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼りつけないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

運転についてのご注意

他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

酒気帯び運転は絶対しないでください。お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

お子さまをのせるときは

お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、ライター、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思いがけない事故につながるおそれがあり危険です。

お車にお子さまをのせる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付けかたなどをまとめた「チャイルドシートの取り付け」(→P. 73)をお読みください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。(法律で義務づけられています)

本書の中の表示について

警告、注意、知識について

⚠警告

ここに記載されていることをお守りいただかないと、生命の危険または、重大な傷害につながるおそれがあります。お客様自身と周囲の人々への危険を避けたり減少させたりするため必ずお読みください。

⚠注意

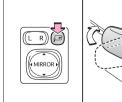
ここに記載されていることをお守りいただかないと、お車や装備品の故障や破損につながるおそれや、正しい性能を確保できない場合があります。

知識

機能の説明や操作方法の説明以外で知っておいていただきたいこと、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト内の表示について

セーフティーシンボル

“してはいけません”“このようにしないでください”“このようなことを起こさないでください”という意味を表しています。

操作を示す矢印

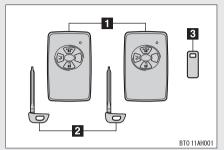
➡ スイッチなどの操作（押す、回すなど）を示しています。

⇨ 操作後の作動（ふたが開くなど）を示しています。

運転する前に 1

キー

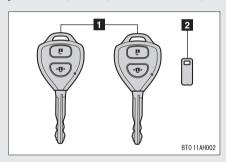
お客様へ以下のキーをお渡しします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 電子キー

- スマートエントリー&スタートシステムの作動 (→P. 20)
- ワイヤレス機能の作動 (→P. 29)

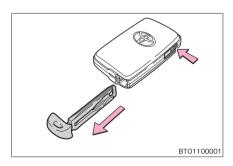
2 メカニカルキー

3 キーナンバープレート

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 マスターキー

ワイヤレス機能の作動 (→P. 29)

2 キーナンバープレート

メカニカルキーを使うには

メカニカルキーを取り出す

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。(→P. 269)

知識

■キーナンバープレート

車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管ください。万一キーを紛失した場合、トヨタ販売店でキーナンバーから新しいキーが作製できます。（→P. 268）

■航空機に乗るときは

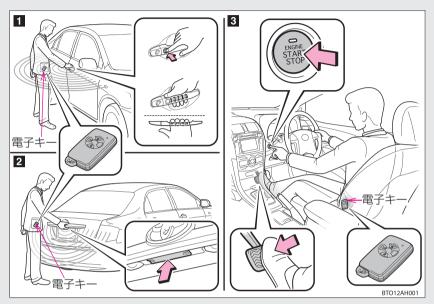
航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

注意

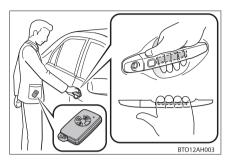
■キーの故障を防ぐために

- キーに衝撃を与えたり、直射日光のあたる高温な場所にさらしたり、ぬらしたりしないでください。
- キーを磁気のあるものに近づけたり、電磁波を遮断するものをキー表面に貼りつけたりしないでください。

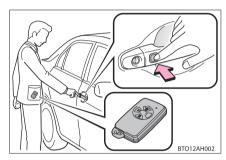
スマートエントリー&スタートシステム *

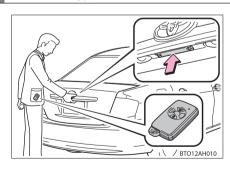
電子キーをポケットなどに携帯するだけで以下の操作が行えます。
(必ず運転者が携帯してください)

1 ドアの解錠・施錠 (→P. 21)
2 トランクの解錠 (→P. 21)
3 エンジンの始動 (→P. 93)

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

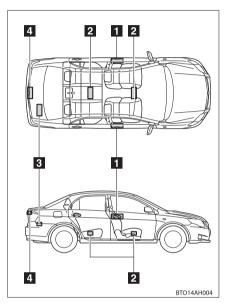
ドアの解錠・施錠（フロントドアハンドルのみ）

ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後３秒間は解錠できません。

ロックスイッチを押して施錠する

トランクの解錠

トランクオープンスイッチを長押しして解錠する

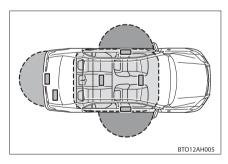
アンテナの位置と作動範囲

■ アンテナの位置

1 車外アンテナ

2 車内アンテナ

3 トランク内アンテナ

4 トランク外アンテナ

■ 作動範囲（電子キーの検知エリア）

:ドアの施錠・解錠時

フロントドアハンドルから周囲約 70 cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

:トランクの解錠

トランクオープンスイッチから周囲約70 cm以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

:エンジン始動時またはモード切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

知識

■作動の合図

ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

■節電機能

電子キーの電池と車両のバッテリー保護のため、以下の状況ではスマートエントリー＆スタートシステムを停止します。

- 2 週間以上スマートエントリー＆スタートシステムを使用しなかった
- 車両の外約 1 m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

以下のいずれかを行うと、スマートエントリー＆スタートシステムが復帰します。

- ドアハンドル上のロックスイッチで施錠する
- ワイヤレス機能で施錠・解錠する（→P. 29）
- メカニカルキーで施錠・解錠する（→P. 269）

■電池の消耗について

- 電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です（電子キーを使用しなくても電池は消耗します）。スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能が作動しなかったり、作動範囲が狭くなったりする場合は、電池が消耗している可能性があります。電池が弱ったら新しい電池に交換してください。（→P. 223）
- 電池残量が少なくなると、エンジンを停止した際に車内から警告音が鳴ります。（→P. 254）
- 電池の著しい消耗を防ぐため、以下のような磁気を発生する電化製品の 1 m 以内に電子キーを置かないでください。
  - ・ＴＶ
  - ・パソコン
  - ・充電中の携帯電話やコードレス電話機
  - ・電気スタンド

■システムを正しく作動させるために

電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近づけすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知されず、システムが正しく作動しないことがあります。(誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります)

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内(検知エリア内)にあっても、以下のような場合は正しく作動しないことがあります。

・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近づきすぎる、または地面の近くや高い場所にある場合
・トランクの解錠時に電子キーが地面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近づきすぎた場合
・エンジン始動時またはモード切りかえ時に電子キーがインストルメントパネルやフロア上、リヤシート後方のパッケージトレイ上、またはグローブボックス内などに置かれていた場合

●インストルメントパネル上面・ドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知されて車外からのドアロックが可能になる場合があり、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあるため注意してください。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。

●車外でもドアガラスに近い位置に電子キーがあるときは、エンジン始動が可能になる場合があります。

●洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが解錠することがあります。(ドアの開閉操作がなければ約 30 秒後に自動的に施錠されます)

●手袋を装着していると、ドアハンドルを握っても解錠されない場合があります。

●車両に近い位置に電子キーがあるときにワイヤレス機能などで施錠を行うと、スマートエントリー&スタートシステムによる解錠ができなくなることがあります。(ワイヤレス機能を使って解錠すると復帰します)

■**長期間運転しないときは**

盗難防止のため、電子キーを車両から 2 m 以上離しておいてください。

■**解錠操作のセキュリティ機能**

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは盗難防止のため、施錠されます。

■**警告音と警告表示について**

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、車内や車外で警告音が鳴ったり、警告灯が点灯したり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。

●警告灯が点灯した場合
状況に応じて適切に対処してください。(→P. 241)

●マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示された場合
(オプティトロンメーター装着車)
ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。(→P. 246)

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は以下のようになります。

警告音	状況	対処方法
車外から“ピー”と 2 秒間鳴る	車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー&スタートシステムでドアを施錠しようとした	車内から電子キーを取り出した後、再度施錠してください。
	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに、電子キーを外に持ち出してドアを施錠しようとした	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした後、再度施錠してください。
	全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じてください。
車外から“ピー”と 10 秒間鳴る	いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー&スタートシステムで施錠しようとした	全ドアを閉めた後、再度施錠してください。
車内から“ピー”と 1 回鳴る	電子キーの電池の残量が少ない	新しい電池と交換してください。(→P. 223)
車内から“ピー”と鳴り続ける*	シフトレバーを P 以外の位置にしたまま、ドアを開けて外に出ようとした	シフトレバーを P にしてください。
車内から“ピー、ピー”と鳴り続ける	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードにした(アクセサリーモードのとき運転席ドアを開いた)	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした後、運転席ドアを閉めてください。
	運転席ドアが開いている状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にした	運転席ドアを閉めてください。

*：オートマチック車

■スマートエントリー&スタートシステムが正常に作動しないときは

●ドアの解錠、施錠：→P. 269

●エンジン始動：→P. 269

■電池が切れたときは

→P. 223

■販売店で設定可能な機能

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にするなどの変更ができます。（カスタマイズ一覧：→P. 290）

⚠ 警告

■電波がおよぼす影響についての警告

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器を装着されているかたは、室内アンテナ・車外アンテナ（→P. 22）から約 22 cm 以内に近づかないようにしてください。電波により植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器の作動に影響を与えるおそれがあります。

●植え込み型心臓ペースメーカーおよび植え込み型除細動器以外の医療用電気機器を使用される場合は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波により医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー&スタートシステムを非作動にすることもできます。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

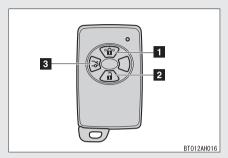
■**機能が正常に働かないおそれのある状況**

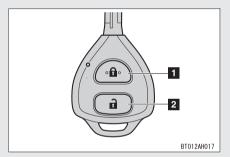
スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しない場合があります。(対処方法:→P. 269)

- 電子キーの電池が消耗しているとき
- 近くにテレビ塔や発電所、ガソリンスタンド、放送局、大型ディスプレイ、空港があるなど強い電波やノイズを発生する場所にいるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 電子キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 複数の電子キーが近くにあるとき
- 電子キーを以下のような電波を発信する製品と同時に携帯または使用しているとき
  - ・ほかの車の電子キー
  - ・電波式ワイヤレスリモコン
  - ・パソコン
- リヤガラスに金属を含むフィルムが貼ってあるとき

ワイヤレスリモコン

ドアを施錠・解錠できます。

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠
3 トランク解錠（長押し）

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

知識

■作動の合図

ドア　　：ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）と非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

トランク：ブザーで知らせます。

■半ドア警告ブザー（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

ドアが完全に閉まっていない状態で、ドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。ドアを完全に閉めてからもう一度施錠してください。

■電池の消耗について

→P. 23

■解錠操作のセキュリティ機能

→P. 25

■電池が切れたときは

→P. 223

■機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

→P. 28

■販売店で設定可能な機能

ワイヤレスリモコンを非作動にするなどの変更ができます。
（カスタマイズ一覧：→P. 290）

注意

■**機能が正常に働かないおそれのある状況（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）**

以下のような場合、ワイヤレス機能が正常に働かないおそれがあります。

- 近くにテレビ塔や発電所、放送局、空港など強い電波を発生する設備があるとき
- 無線機や携帯電話、コードレス電話などの無線通信機器を携帯しているとき
- 複数のワイヤレスキーが近くにあるとき
- ワイヤレスキーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- 近くで電波式ワイヤレスキーを使用しているとき
- ワイヤレスキーをパソコンなどの電化製品の近くに置いているとき

ドア

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレス機能、キー、ドアロックスイッチを使って施錠・解錠できます。

■ スマートエントリー＆スタートシステム（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

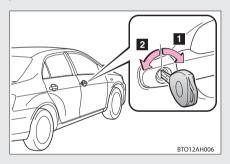
→P. 20

■ ワイヤレス機能

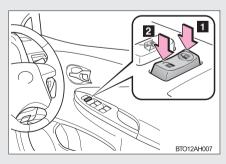
→P. 29

■ キー

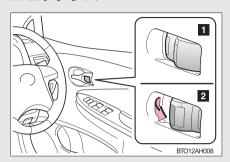
▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車
メカニカルキーを使ってドアを施錠・解錠できます。（→P. 269）

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ドアロックスイッチ

1 全ドア施錠

2 全ドア解錠

■ ロックレバー

1 施錠

2 解錠

運転席ドアは、ロックレバーが施錠側になっていても、車内のドアレバーを引くと開けられます。

キーを使わずに外側からフロント席を施錠するときは

手順 1 ロックレバーを施錠側にする

手順 2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

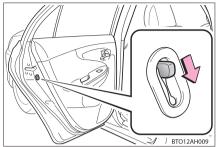
▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがアクセサリーモードまたはイグニッションON モードのときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。

電子キーの位置によっては、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

キーがエンジン スイッチに差し込まれているときは施錠されません。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが内側から開かなくなります

お子さまが内側からリヤ席ドアを開けないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

警告

■事故を防ぐために

運転中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思いもよらずドアが開き、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートベルトを必ず使用する

●全てのドアを施錠する

●全てのドアを確実に閉める

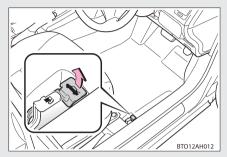
●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
ドアが開き車外に放り出されたりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。とくに、運転席はロックレバーが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

トランク

トランクオープナーやスマートエントリー＆スタートシステム、キーを使って開けることができます。

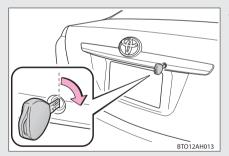
■ 車内からトランクを開けるには

BTO12AH012

レバーを引いて、トランクのロックを解除する

■ 車外からトランクを開けるには

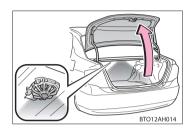
▶ スマートエントリー＆スタートシステム
（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）
→P. 20

▶ キー（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

BTO12AH013

キーをまわし、トランクのロックを解除する

知識

■ラゲージルームライト

BTO12AH014

トランクを開けたとき、ラゲージルームライトが点灯します。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。このとき、トランクオープンスイッチを押すことによりトランクを開けることができます。

警告

■走行中の警告

●走行中はトランクを閉じてください。
開けたまま走行すると、トランクが車外のものに当たったり荷物が投げ出されたりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
また、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡につながるおそれがあり危険です。走行する前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●走行前にトランクが完全に閉まっていることを確認してください。トランクが完全に閉まっていないと、走行中にトランクが突然開き、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●トランク内には絶対に人を乗せないでください。急ブレーキ、急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

警告

■ **お子さまを乗せているときは**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。

- トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
  誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。
- お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
  不意にトランクリッドが作動したり、閉めるときに手、頭、首などを挟んだりするおそれがあります。

■ **トランクの使用にあたって**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが落下するおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。

警告

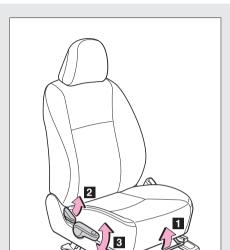
BTO12AH016

● 半開状態で使用すると、トランクリッドが落ちて重大な傷害を受けるおそれがあります。とくに傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

BTO12AH015

● トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

● トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。

● トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに落ちるおそれがあります。

フロントシート

1 前後位置調整

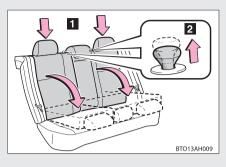
2 リクライニング調整

3 シート全体の上下調整*

警告

■リクライニング調整について

- 背もたれは必要以上に倒さないでください。
  事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けるなど生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- シート調整後はシートがきちんと固定されていることを確認してください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

リヤシート

1 ヘッドレストをいちばん下まで下げます。

2 リヤシート前倒しノブを引き上げてロックを解除し背もたれを倒します。
戻すときは背もたれを起こして固定してください。*

警告

■背もたれを前倒しするときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 走行中に前倒しをしない
- 平坦な場所でパーキングブレーキを確実にかけ、シフトレバーを P にする
- 倒した背もたれの上やトランクに人を乗せて走行しない
- お子さまがトランクに入らないよう注意する

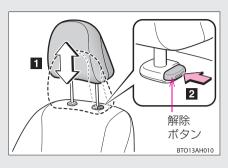
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■背もたれをもとの位置にもどした後は

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●シートを前後に軽くゆさぶり、確実に固定する
シートが確実に固定されていないときは、ノブの下部に赤色が見えます。赤色が見えていないことを確認してください。

●シートベルトを挟み込まないようにしてください。シートベルトが傷つくおそれがあります。

ヘッドレスト

1 上下調整

下げるときは、解除ボタンを押しながら操作します。

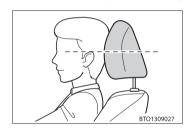
2 取りはずし

解除ボタンを押しながら取りはずします。

知識

■リヤ中央席について＊

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

■ヘッドレストの高さについて（リヤ中央席を除く）

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上の辺りになるよう調整してください。

警告

■ヘッドレストについて

以下のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを正しい位置に調整する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

■ 正しく着用するには

▶ 3 点式シートベルト

BTO13AH012

● 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

● ねじれが無いようにする

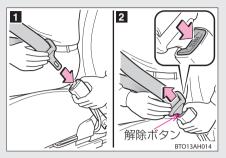
▶ 2 点式シートベルト

BTO13AH013

● 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる

● 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る

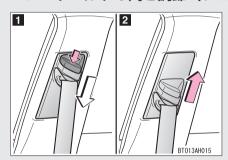
● ねじれが無いようにする

■ 着け方、はずし方

1 固定

“カチッ”と音がするまで差し込みます。

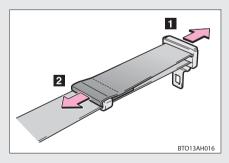
2 解除

解除ボタンを押します。

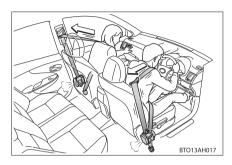
■ シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 下げる

2 上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

■ シートベルトの長さ調節（2点式シートベルト）

1 伸ばす

2 縮める

シートベルトプリテンショナー（フロント席）

前方から強い衝突を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方からの衝撃が弱いときや、横やうしろからの衝撃のときは作動しない場合があります。

プリクラッシュシートベルト（プリクラッシュセーフティ付車のフロント席）

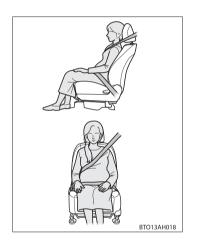
プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突の前にフロントシートベルトを巻き取り、プリテンショナーの効果を高めます。

急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 146）

知識

■緊急時シートベルト固定機構

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルトを強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■妊娠中の女性や疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P. 43）
妊娠中の方も、通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に着用してください。また、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。
ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■お子さまのシートベルトの使い方

車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合ったチャイルドシートを使用してください。(→P. 73)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたにしたがってください。(→P. 43)

■シートベルトプリテンショナーについて

シートベルトプリテンショナーは、一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、以下のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 車に乗るときは全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一つにつき一人で使用する
  お子さまでも一つのベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤシートに座らせてシートベルトを着用させる
- シートは必要以上に倒さない
  上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

警告

■**お子さまを乗せるときは**

お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

■**シートベルトの損傷・故障について**

●ベルトやプレート、バックル等は、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。

●シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

●プレートがバックルに確実に差し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく差し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。

●もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート、シートベルトを交換してください。

●プリテンショナー付シートベルトの取り付け、取りはずし、分解、廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
不適切に扱うと、正常に作動しなくなり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■**プリテンショナー付シートベルトについて**

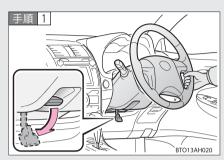
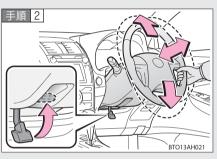
シートベルトプリテンショナーが作動すると SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合はシートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。

ハンドル

ハンドル位置を運転しやすいように調整できます。

手順 1

ハンドルを持ち、レバーを下げる

手順 2

ハンドルを前後・上下に動かし、適切な位置にする

位置が決定したら、レバーを上げてハンドルを固定してください。

⚠ 警告

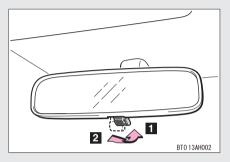
■走行中の警告

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

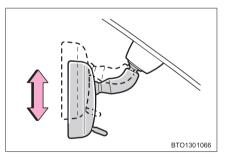
■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとハンドルの位置が突然かわり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

インナーミラー

後続車のライトがまぶしいときは、レバーを操作して反射光を減少（防眩）できます。

1 通常使用状態

2 防眩状態

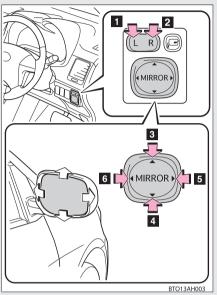
上下調整のしかた

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

⚠ 警告

■運転中の警告

運転中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、死亡や重大な傷害につながるような事故になるおそれがあります。

ドアミラー

スイッチで鏡面の角度を調整できます。

ミラーを選ぶ

1 左

2 右

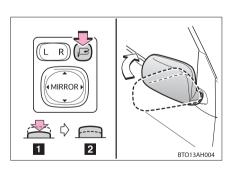
スイッチを操作してミラーの鏡面を調整する

3 上

4 下

5 右

6 左

ドアミラーを格納するときは

ボタンを押してドアミラーを格 納する

もう一度押すと、もとの位置にもどります。

1 格納状態

2 復帰状態

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
"エンジン スタート ストップ" スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが "ACC" または "ON" のとき

■ミラーが曇ったときは（ミラーヒーター装着車）

ミラーヒーターを作動させて、曇りを取ることができます。（→P. 168）

■レインクリアリングミラー

鏡面に付着した水滴を膜状に広げる親水効果を持つコーティングを施しており、雨天時における後方視認性を向上させます。
鏡面に汚れなどが付着すると親水効果は一時的に低下しますが、太陽光をあてることにより付着した汚れを化学的に分解し、親水効果を徐々に回復させる機能をもっています。

●次のような場合、親水効果が低下しますが、晴天時に 1・2 日間太陽光をあてることで親水効果は徐々に回復します。親水効果を早く回復させたいときは回復作業（→P. 193）を行ってください。

・鏡面に、汚れや異物が付着したり、素手で触れたり清潔でない布で拭いたとき
・洗車により鏡面に洗剤やワックスが付着したとき
・地下、屋内駐車場などの日のあたらない場所に長時間駐車したとき

●次のような場合、親水効果が回復できなくなります。十分注意してください。

・鏡面にシリコーン入りのカーメンテナンス商品が付着したとき
・鏡面に傷をつけたとき

警告

■**走行しているときは**

走行中は以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤り思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡につながるおそれがあります。

●ミラーの調整をしない

●ミラーを格納したまま走らない
必ず走行前に運転席側および助手席側のミラーを復帰して、正しく調整する

■**ミラーヒーターが作動しているときは（ミラーヒーター装着車）**

鏡面が熱くなるのでふれないでください。

注意

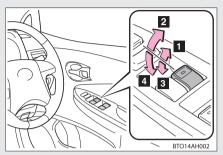
■**レインクリアリングミラーの取り扱いについて**

●鏡面が凍結したときは、温水をかけるか、ミラーヒーターを作動させる（ミラーヒーター装着車のみ）などして解氷してください。
親水膜の効果を持続させるため、鏡面の凍結部分はプラスチックの板などで削り落とさないでください。

●シリコーン入りの撥水剤や油膜取り剤、ワックス、その他のカーメンテナンス商品を使用する場合は、鏡面に付着させないよう十分注意してください。

●砂のついた布、油膜取り剤、研磨剤など、鏡面を傷つけるものでこすらないでください。

パワーウインドウ

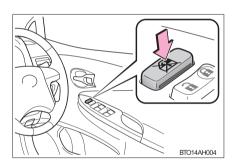
スイッチでドアガラスを開閉できます。

1 閉める

2 自動全閉※

3 開ける

4 自動全開※

※途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

ウインドウロックスイッチ

スイッチを押して運転席以外のドアガラスを作動不可にする

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ ON ”のとき

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスの間に異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■パワーウインドウを閉めることができないときは

挟み込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを閉めることができないときは、閉めることができないドアのパワーウインドウスイッチで、下記の操作を行ってください。

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車

車を停止し、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モードの状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車

車を停止し、エンジンスイッチを“ON”の状態で、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続けることでドアガラスを閉めることができます。

上記の操作を行ってもドアガラスが閉まらない場合、挟み込み防止機能の初期化を次の手順で実施してください。

手順 1 パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 6 秒間引き続ける

手順 2 パワーウインドウスイッチを「自動全開」の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを 2 秒間押し続ける

手順 3 再度、パワーウインドウスイッチを「自動全閉」の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを 2 秒間引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。以上の操作を行っても反転して閉じ切らない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■エンジンスイッチ OFF 後の作動

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ACC ” または “ LOCK ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にしたあとでも、約 45 秒間ドアガラスを開閉できます。ただし、その間に運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

⚠ 警告

■ドアガラスを開閉するときは

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

BTO14AH001

- ●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。
- ●お子さまには、ドアガラスの操作をさせないでください。
  ドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりして重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■挟み込み防止機能

- ●挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手、腕、頭、首などを挟んだりしないでください。重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険です。
- ●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを引き続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

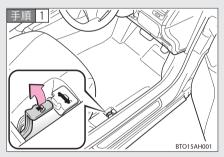
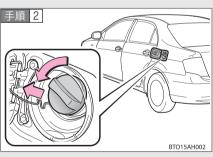
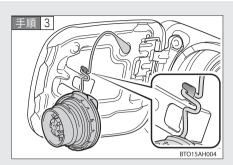
給油口の開け方

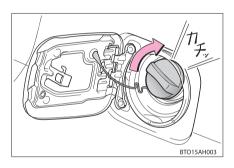
以下の手順で給油口を開けてください。

■ 給油する前に

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF にして、ドアと窓を閉めてください。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを “ LOCK ” にして、ドアと窓を閉めてください。

■ 給油口の開け方

給油口を開ける

キャップをゆっくりまわして開ける

キャップをハンガーにかける

給油口のキャップを閉めるときは

キャップを"カチッ"と音がするまでまわして閉めます。

手を離すと、キャップが逆方向に少しもどります。

知識

■燃料の種類

無鉛レギュラーガソリン

■燃料タンク容量

約 50 L

警告

■**給油について**

給油前には以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●車体などの金属部分にふれて身体の静電気を除去する
放電による火花で燃料に引火するおそれがあります。

●キャップをゆるめたときに、“シュー”という音がする場合は、その音が止まってからゆっくり開けてください。
キャップを開けるとき、キャップのツマミ部分を持ち、ゆっくりと開けます。ゆっくりと開けないと気温が高いとき、給油口から燃料が吹き返してけがをするおそれがあります。

●給油口に、静電気を除去していない人を近づけない

●気化した燃料を吸わないようにする
燃料の成分には、有害物質を含んでいるものもあります。

●喫煙しない
引火して火災を引き起こすおそれがあります。

●車内に戻ったり、帯電している人や物にふれない
再び帯電する可能性があります。

●給油するときは給油口にノズルを確実に挿入してください。ノズルを浮かして継ぎ足し給油を行うと、オートストップが作動せず、燃料がこぼれる場合があります。

●そのほか、ガソリンスタンド内に掲示されている注意事項を守ってください。
正常に給油できない場合は、スタンドの店員を呼んで指示にしたがってください。

■**キャップ交換時の警告**

トヨタ純正以外のキャップを使用しないでください。
純正品を使わないと火災などを引き起こし、その結果重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

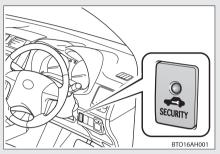
注意

■給油するときは

指定以外のガソリンや他の燃料（粗悪ガソリン、軽油、灯油、アルコール系燃料）を使用したり、燃料をこぼしたりしないでください。
以下のような状態になるおそれがあります。

- エンジンの始動性が悪くなる
- ノッキングが発生する
- エンジン出力が低下する
- 排気制御システムが正常に機能しない
- 燃料系部品が損傷する
- 塗装が損傷する

エンジンイモビライザーシステム（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外ではエンジンを始動できません。
車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

"エンジン スタート ストップ" スイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、"エンジン スタート ストップ" スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

エンジンイモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

●キーが金属性のものに接したり、覆われているとき

●キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■エンジンイモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

正しい運転姿勢

以下の条件にあった正しい姿勢で運転してください。

1 まっすぐ座り、背もたれから背を離さない（→ P. 39）

2 シートをペダルが十分に踏みこめるようなシート位置にする（→ P. 39）

3 各装置が操作しやすい背もたれの角度にする（→ P. 39）

4 SRS エアバッグが自分の胸の方へ向くようなハンドルの位置にする（→ P. 49）

5 ヘッドレストの中央が耳の後方になる（→ P. 42）

6 シートベルトが正しく着用できる（→ P. 43）

警告

■**走行中は**

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあり危険です。

●背もたれと背の間にクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあり危険です。

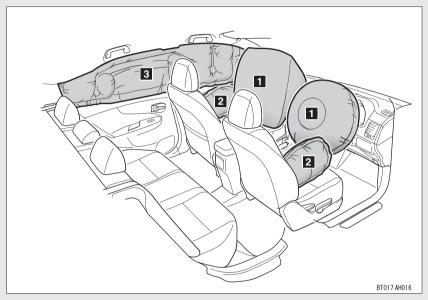
●フロントシートの下にものを置かないでください。
物が挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故の原因となって、生命にかかわる重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。また、調整機構の故障の原因になります。

■**シートを調整するときは**

●同乗者がシートに当たってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近づけないでください。
指や手を挟み、けがをするおそれがあり危険です。

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが身体を拘束する働きとあわせて乗員への衝撃を緩和させます。

▶ フロント SRS エアバッグ

1 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ
（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

▶ SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ*

2 SRS サイドエアバッグ
（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

3 SRS カーテンシールドエアバッグ
（フロント席とリヤ外側席乗員のおもに頭部への衝撃を緩和）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■SRS エアバッグが展開すると

●SRS エアバッグとの接触により、打撲やすり傷などを受けることがあります。

●作動音とともに白いガスが発生します。

●フロント席、フロントピラーやルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグモジュールの各部品（ハンドルのハブ、エアバッグカバー、インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ）

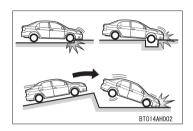
●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、約 20 ～ 30 km/h の速度で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合や、もぐりこむような衝突（例えば、車両前部がもぐりこむ、下にはいり込む、トラックの下敷きになるなど）の場合は、展開車速は設定値より高くなります。

●衝撃の強さが設定値に近い場合での前方からの衝突の場合には、フロント SRS エアバッグとシートベルトプリテンショナーが同時に作動しない場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が、約 20 ～ 30 k m/ h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

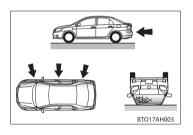
■衝突以外で作動するとき

以下のような状況で、車両下部に強い衝撃を受けたときも、作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗り越えたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

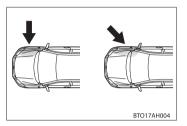
■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃、横転、または低速での前方からの衝撃で作動するようには設計されていません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

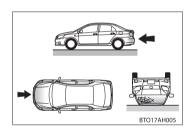
●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき
（SRS サイドエアバッグ＆ SRS カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグは、前方や後方からの衝撃、横転、または低速での側面からの衝撃で作動するようには設計されていません。

●前方からの衝突

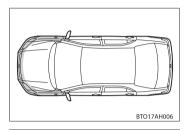
●後方からの衝突

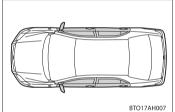
●横転

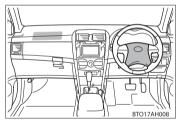
■ トヨタ販売店に連絡が必要な場合

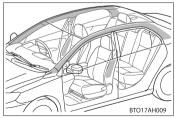
以下のような場合には、できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

BTO17AH006

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17AH007

●SRS サイドエアバッグと SRS カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドア部分が衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

BTO17AH008

●ハンドルのパッド部分や助手席SRSエアバッグのカバー部が傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

BTO17AH009

●SRS　サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロント・リヤピラー部、ルーフサイド部が、傷ついたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

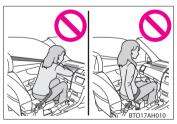
警告

■SRS エアバッグについて

必ず以下のことをお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転手と乗員全てがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグも強い力でふくらむため、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトが使えないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをお勧めいたします。(→P. 73)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない。

●お子さまを助手席SRSエアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない。

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない。

警告

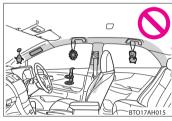
■SRS エアバッグについて

●ドアやフロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレールへ寄りかからない。

●助手席や、外側リヤシートでドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない。

⚠ 警告

■SRS エアバッグについて

●ダッシュボード、ステアリングパッド部などには何も取り付けたり、置いたりしない。

●ドア、フロントガラス、サイドガラス、フロントおよびリヤピラー、ルーフサイドレール、アシストグリップなどには何も取り付けない。

●SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。

●SRS エアバッグシステム構成部品の周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているためふれないでください。

●SRS エアバッグがふくらんだ後にもし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため残留物はできるだけ早く洗い流してください。

警告

■**SRS エアバッグについて**

SRS エアバッグが収納されているパッド部およびフロントピラーガーニッシュ部に傷がついていたり、ひび割れがあるときはそのまま使用せず、トヨタ販売店で交換してください。

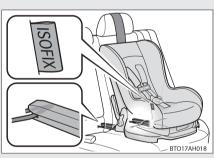
■**改造・廃棄について**

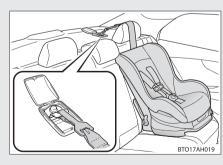
トヨタ販売店への相談なしに、以下の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル、インストルメントパネル、ダッシュボード、シート、シート表皮、フロント・サイド・リヤピラー、ルーフサイドレール周辺の修理、取りはずし、改造
- フロントフェンダー、フロントバンパー、車両客室側面部の修理、改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）、除雪装置、ウィンチなどの取り付け
- サスペンションの改造
- CD プレーヤー、無線機などの電化製品の取り付け

チャイルドシートの取り付け

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。
取り付け方法は、必ず商品付属の取扱書にしたがってください。

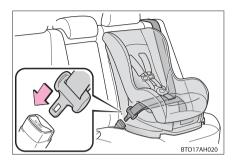
シートベルトによる取り付け
(→ P. 74)

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー* (→ P. 75)

リヤシートの外側の座席に装備されています。(固定専用バーが装備されていることを示すタグがシートに付いています)

トップテザーアンカー*
(→ P. 75)

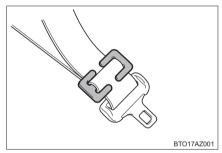
テザーベルトを固定するときに使います。
トップテザーアンカーはリヤシート後方のパッケージトレイトリムに装備されています。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

シートベルトで固定する

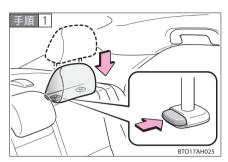
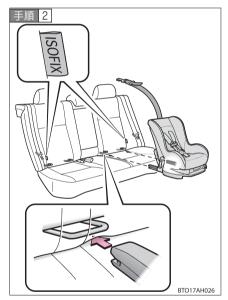
BTO17AH020

チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで差し込む。ベルトがねじれていないようにする。

チャイルドシートに付属の取扱書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

BTO17AZ001

チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する。

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ 品番：73119-22010）

取り付け後はチャイルドシートを軽くゆさぶり、しっかりと固定されていることを確認してください。

ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーで固定する

ヘッドレストをいちばん下まで下げる

固定専用バーの位置を確認して、チャイルドシートをシートに取り付ける

固定専用バーは、シートクッションと背もたれの間にあります。

チャイルドシートの取り付け金具をチャイルドシート固定専用バーに取り付けます。
取り付け方法は、それぞれの商品付属の取扱書にしたがってください。

フタを開けて、トップテザーアンカーにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されているか確認します。

取り付けたチャイルドシートを軽くゆさぶり、確実に取り付けられていることを確認する

知識

■ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーについて

この ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカーには、道路運送車両の保安基準に適合する子供専用シート（ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バー＆トップテザーアンカー対応のトヨタ純正チャイルドシート）を取り付けることをおすすめします。チャイルドシートの選択にあたってはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■チャイルドシートについて

●事故や急停止の際、効果的に保護するために、必ずお子さまの年齢や体の大きさに合ったシートベルトまたはチャイルドシートを使用してください。お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートの代わりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントガラスや乗員、室内の装備にぶつかるおそれがあります。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用してリヤシートに取り付けてください。

●たとえチャイルドシートに座らせていても、ドアやシート、フロントピラー、ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分ももたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。必ずチャイルドシートに付属の取扱書をよくお読みのうえ、確実に取り付け、使用方法を守ってください。使用方法を誤ったり、確実に固定されていないと、急ブレーキや衝突時などに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■チャイルドシートを取り付けるときは

●お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。

●シートベルトとバックルが固定されていて、ベルトがねじれていないか確認してください。

●チャイルドシートを左右に動かして、しっかり固定されているか確認してください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるときは

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席にはチャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。
うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。助手席側のサンバイザーに、同内容の警告文が表示されています。あわせてご覧ください。

警告

■**チャイルドシートを取り付けるときは**

BTO17AH032

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。
助手席SRSエアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すとともに肩から落ちないようにしてください。お守りいただかないと事故や急ブレーキの際に重大な傷害や死亡につながるおそれがあり危険です。

●ISOFIX 対応チャイルドシート固定専用バーを使用するときは、周辺に障害物が無いか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。

■**チャイルドシートを使用しないときは**

●車両にチャイルドシートを搭載するときは、適切な方法で確実にシートを取り付けてください。(→P. 74、75) チャイルドシートを使用しない場合でも、シートにしっかり固定されていない状態で、客室内に置くことは避けてください。

●チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両から降ろして保管するか、トランク内に収納し、しっかりと固定しておいてください。

注意

■ **トップテザーアンカーについて**

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

運転するときに　2

2-1. 運転のしかた

2-2. メーターの見方

2-3. ライトのつけ方・ワイパーの使い方

2-4. その他の走行装置の使い方

2-5. 様々な状況での運転

運転にあたって

安全運転を心がけて、以下の手順で走行ください。

■ エンジンをかける（→P. 94,97）

■ 発進する

▶ オートマチック車

手順 1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトレバーを D にする（→P. 100）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 107）

手順 3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、シフトレバーを 1 速にする（→P. 104）

手順 2 パーキングブレーキを解除する（→P. 107）

手順 3 クラッチペダルから徐々に足を離し、同時にアクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを P または N にする。（→P. 100）

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトレバーを N にする。（→P. 104）

■ 駐車する

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーは D のまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 107）

手順 3 シフトレバーを P にする（→P. 100）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンを止める

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを “ LOCK ” にします。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

▶ マニュアル車

手順 1 クラッチペダルを踏んだまま、ブレーキペダルを踏む

手順 2 パーキングブレーキをかける（→P. 107）

手順 3 シフトレバーを平地や下り坂では R、上り坂では 1 にする（→P. 104）

坂道の途中で駐車をする場合は必要に応じて、輪止めを使用してください。

手順 4 エンジンを止める

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを OFF にします。

▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチを “ LOCK ” にします。

手順 5 キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

上り坂の発進のしかた

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを D にする

手順 2 アクセルペダルをゆっくり踏む

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

▶ マニュアル車

手順 1 パーキングブレーキをしっかりかけ、シフトレバーを 1 速にする

手順 2 アクセルペダルを軽く踏み、同時にクラッチペダルから除々に足を離す

手順 3 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除し発進する

知識

■雨の日の運転について

●雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。

●雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面の間に水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心者運転標識や高齢者運転標識などをアルミボデー部に取り付けることはできません。

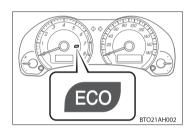
■環境に配慮した運転（オートマチック車）

環境に配慮した運転をしているとき、エコドライブインジケーターランプが点灯します。
必要以上にアクセルペダルを踏んだときや停車中は消灯します。

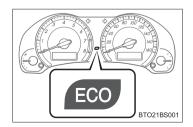
次の場合、エコドライブインジケーターランプは作動しません。

●シフトレバーが D 以外のとき

●車速が約 100km/h 以上のとき

▶ アナログメーター（ドライブモニター装着車）

▶ アナログメーター（ドライブモニター非装着車）

▶ オプティトロンメーター

警告

■**発進するときは**

オートマチック車では、エンジンがかかったまま停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでいてください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■**運転するときは**

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を把握しない状態で運転しないでください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。
・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。
・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃えやすいものの上を走行したり、可燃物付近に車を止めたりしないでください。排気管や排気ガスは高温になり、可燃物が近くにあると火災になるおそれがあり危険です。

●オートマチック車では、シフトレバーを前進側のシフトポジションに入れたまま惰性で後退したり、R に入れたまま惰性で前進することは絶対にやめてください。
エンジンが止まり、ブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが重くなったりして、思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車内で排気ガス臭に気づいたら、ドアガラスを開け、トランクが閉まっていることを確認してください。多量の排気ガスが眠気を起こし事故の原因となるほか、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。すみやかにトヨタ販売店で点検整備を受けてください。

●車両が動いているあいだは、シフトレバーを P に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。(オートマチック車)

警告

- 車両が前進しているあいだは、シフトレバーを R に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 車両が後退しているあいだは、シフトレバーを D(オートマチック車)または 1(マニュアル車)に入れないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。
- 走行中にシフトレバーをNにすると、トランスミッションとエンジンの動力伝達が解除され、エンジンブレーキが効かなくなります。
- 通常走行時は、走行中にエンジンを停止しないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P. 278を参照してください。
- 急な下り坂では、エンジンブレーキを使用してスピードを下げてください。
フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキがオーバーヒートして正常に機能しなくなります。(→P. 101)
- 坂道で止まるときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、ブレーキペダルやパーキングブレーキを使用してください。
- ハンドル、シート、ドアミラー、インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤り、思わぬ事故の原因となって重大な傷害や死亡のおそれがあり危険です。
- 重大な傷害や死亡のおそれがあるので、全ての同乗者が頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。
- オフロード走行をしないでください。
やむをえずオフロードを走行するときは、慎重に運転してください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
電装品のショートやエンジンの破損など、重大な車両故障の原因となるおそれがあります。

⚠ 警告

■すべりやすい路面を運転するときは

- 急ブレーキ、急加速、急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- シフトアップやシフトダウンによるエンジンブレーキなど、エンジン回転数の急な変化は、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルを取られ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■シフトレバーを操作するときは

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したときは

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。必要なときにパッドの交換が行われないと、ローターの損傷につながる場合があります。
ブレーキパッドやディスクローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限界を超えて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するときは

- 不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
  シフトレバーが P（オートマチック車）または N 以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 長時間エンジンをかけたままにしないでください。どうしても必要な場合は、開かれた場所に車を停め、排気ガスが車内に入ってこないことを確認してください。
- 車が動き出すことによる事故を防ぐため、エンジン回転中は常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

警告

● 坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながるのを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

● 停車中に空ぶかしをしないでください
排気管が過熱し、可燃物が近くにあると火災につながるおそれがあり危険です。

■ **駐車するときは**

● 炎天下では、メガネ、スプレー缶や炭酸飲料の缶などを車内に放置しないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・スプレー缶からガスがもれたり、出火する
・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす
・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

● ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

● 車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトレバーを P（オートマチック車）にしてエンジンを止め施錠してください。
エンジンがかかっている間は、車から離れないでください。

● エンジン回転中または停止直後はマフラーにふれないでください。
やけどをするおそれがあります。

● 降雪時や雪が積もった場所では、エンジンをかけたままにしないでください。
まわりに積もった雪で排気ガスが滞留して車内に入り、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

警告

■排気ガスについて

排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素（ＣＯ）が含まれているため、排気ガスを吸い込むと重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

- 排気が悪い場所ではエンジンを停止してください。
  特に車庫内など囲まれた場所では排気ガスが充満し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。
- 排気管はときどき点検してください。排気管の腐食などによる穴や亀裂、および継ぎ手部の損傷、また、排気音の異常などに気づいた場合は必ずトヨタ販売店で点検整備を受けてください。そのまま使用すると排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■仮眠するときは

- 必ずエンジンを停止してください。
  エンジンをかけたまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、事故やエンジンの異常過熱による火災が発生するおそれがあります。さらに、風通しの悪い場所に停めると、排気ガスが車内に侵入し、重大な健康障害や死亡に至るおそれがあり危険です。

■ブレーキをかけるときは

- ブレーキ倍力装置が機能しないときは、他の車に近づいたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
  この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。また制動距離も長くなります。
- 万一エンジンが停止したときは、ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。ペダルを踏むたびに、ブレーキのアシスト力の蓄えを使い切ってしまいます。
- ブレーキシステムは二つの独立したシステムで構成されており、一方の油圧システムが故障しても、もう一方は作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。一方のブレーキシステムしか作動していない状態で走行しないでください。直ちにブレーキの修理を受けてください。

■万一脱輪したときは（4WD 車）

いずれかのタイヤが宙に浮いているときは、むやみに空転させないでください。駆動系部品の損傷や車両の飛び出しによる思わぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

■運転中は（オートマチック車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■運転中は（マニュアル車）

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。運転中、アクセルペダルを踏んでいるときにブレーキペダルを踏むと、駆動力を抑制する場合があります。

●クラッチペダルを確実に踏み込んでいない状態で、シフトレバーを操作しないでください。クラッチやトランスミッションが損傷するおそれがあります。

●クラッチの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。

・クラッチペダルに足を乗せたまま走行しない
・1 速以外での発進は避ける
・坂道発進時など、必要以上に半クラッチのままで走行しない

●車がまだ動いているときに R に入れないでください。
クラッチ・トランスミッション・ギアに損傷を受けるおそれがあります。

■駐車するときは

オートマチック車では、必ずシフトレバーを P にしてください。P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■**走行中にタイヤがパンクしたら**

以下のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合は新しいタイヤに交換してください。(→P. 257)

■**冠水路走行に関する注意**

大雨などで冠水した道路では、以下のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●エンストする

●電装品がショートする

●水を吸い込んでのエンジン破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で以下の点検をしてください。

●ブレーキの効き具合

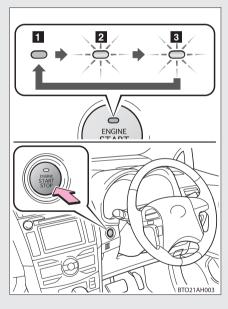
●エンジン、トランスアクスル、トランスファー(4WD車)、ディファレンシャルなどのオイルやフルードの量および質の変化

●プロペラシャフト(4WD車)、各ベアリング、各ジョイント部などの潤滑不良

エンジン（イグニッション）スイッチ（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

電子キーを携帯して以下の操作を行うことで、エンジンの始動または“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのモードを切りかえることができます。

■“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのモード切りかえ

ブレーキペダル（オートマチック車）もしくはクラッチペダル（マニュアル車）を踏まずにエンジンスイッチを押すと、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのモードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとに“ エンジン スタート ストップ ”スイッチのモードが切りかわります）

1 OFF

シフトレバーが P 以外のときは OFF になりません。(オートマチック車)

2 アクセサリーモード

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

3 イグニッション ON モード

全ての電装品が使用できます。

スイッチ上のインジケーターが橙色に点灯します。

■ エンジンのかけ方

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまでブレーキペダルを踏み続けてください。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

▶ マニュアル車

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 62）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

スイッチ上のインジケーターが緑色に点灯します。
緑に点灯していないとエンジンは始動しません。

手順 5 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押す

完全にエンジンが始動するまで各ペダルを踏み続けてください。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのどのモードからでもエンジンを始動できます。

知識

■ステアリングロックを解除するには

ステアリングを左右に動かしながら、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押してください。

ステアリングロックが解除されていないときは、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチのインジケーターが緑色に点滅します。

■エンジンが始動しないときは

エンジンイモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。
(→P. 61)

■“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ上のインジケーターが橙色に点滅したときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動電源 OFF 機能

▶ オートマチック車

シフトレバーが P にあるとき 1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと “ エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動的に OFF になります。

▶ マニュアル車

1 時間以上アクセサリーモードにしたままにしておくと、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチが自動で OFF になります。

■クランキングホールド機能について

エンジン始動操作をしてすぐに手を離すと、エンジンが始動するまでスターターの回転を最大約 18 秒間保持します。
“ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押したままでも、スターターの回転は最大で約 30 秒間です。約 30 秒経過してもエンジンが始動しない場合は、スターターの回転を停止します。その場合は、もう一度エンジンの始動操作をしてください。

■電子キーの電池の消耗について

→P. 23

■電子キーの電池が切れたときは

→P. 223

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P. 28

■ご留意いただきたいこと

→P. 24

⚠警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■緊急時のエンジン停止方法

走行中にエンジンを緊急停止したい場合には、3秒以上“エンジン スタート ストップ”スイッチを押し続けてください。
ただし、緊急時以外は走行中に“エンジン スタート ストップ”スイッチにふれないでください。走行中にエンジンを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、操作力補助がなくなります。その場合はハンドルとブレーキの操作が困難になるため、安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

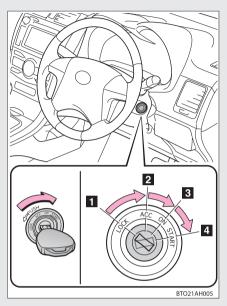
⚠注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンがかかっていないときは“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッションONモードにしたまま長時間放置しないでください。

■エンジンを始動するとき

- エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。
- もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

■ エンジンスイッチの位置

1 “ LOCK ” (OFF)

・ ステアリングロックがかかります。
・ キーを抜き挿しすることができます。(オートマチック車は、シフトレバーの位置が P のとき、キーを抜き挿しできます)

2 “ ACC ”

アクセサリーソケットなどの電装品が使用できます。

3 “ ON ”

全ての電装品が使用できます。

4 “ START ”

エンジンが始動できます。

■ エンジンのかけ方

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

手順 2 シフトレバーが P の位置にあることを確認する

手順 3 ブレーキペダルをしっかり踏む

手順 4 エンジン スイッチを “ START ” の位置にまわす

▶ マニュアル車

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 62）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキがかかっていることを確認する

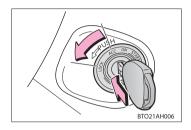
手順 3 シフトレバーが N の位置にあることを確認する

手順 4 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏む

手順 5 エンジン スイッチを “ START ” の位置にまわす

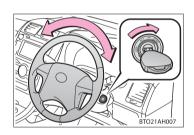
知識

■キーを " ACC " から " LOCK " にまわすには

BTO21AH006

手順 1 シフトレバーが P の位置にあることを確認する（オートマチック車）

手順 2 キーを押し込みながら "LOCK" までまわす

■ステアリングロックを解除するには

BTO21AH007

ステアリングを左右に動かしながら、エンジンスイッチをまわしてください。

警告

■エンジンを始動するときは

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンがかかっていないときは、エンジン スイッチを“ ACC ”または“ON ”にしたまま長時間放置しないでください。

■**エンジンを始動するとき**

●一度に 30 秒以上スターターをまわさないでください。

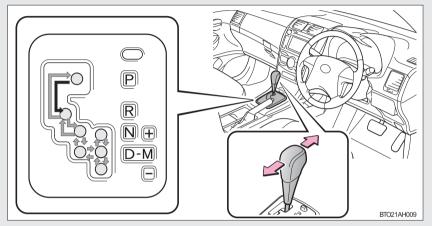
●エンジンが冷えた状態で空ぶかししないでください。

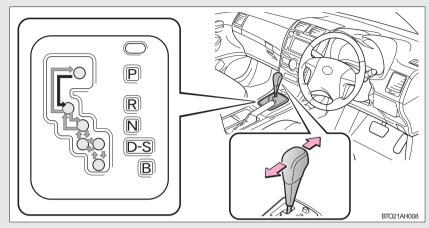
●もしエンジンが始動しにくかったり、ひんぱんにエンストする場合は、ただちにエンジンの点検を受けてください。

オートマチックトランスミッション*

状況に応じてシフトポジションをお選びください。

■ シフトレバーの動かし方

▶ 2ZR-FAE エンジン搭載車

“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

▶ 1NZ-FE エンジン搭載車

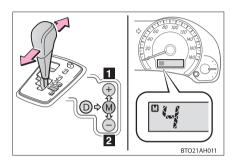
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチが “ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）の状態で、ブレーキペダルを踏んだまま操作します。

■ シフトポジションの使用目的

シフトポジション	目的	
	2ZR-FAE エンジン搭載車	1NZ-FE エンジン搭載車
P	駐車またはエンジン始動	
R	後退	
N	動力が伝わらない状態	
D	通常走行※	
M	7速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行（→P. 102）	
S		坂道走行
B		急な下り坂走行

※　燃費向上や騒音の低減のために、通常は D ポジションを使用してください。

７速スポーツシーケンシャルシフトマチックモードでの変速段切りかえ（2ZR-FAE エンジン搭載車）

シフトレバーを M の位置にして、シフトレバーを操作します。

1 シフトアップ

2 シフトダウン

シフトレバーを操作するごとに 1 段ずつ変速します。

1 ～ 7 の間で選択されている変速段がメーターに表示されます。

知識

■７速スポーツシーケンシャルシフトマチックに関する自動変速について（2ZR-FAE エンジン搭載車）

・エンジン回転数が上がりすぎないように自動的に１段シフトアップされます。
・エンジン回転数が下がりすぎないように自動的に１段シフトダウンされます。

■７速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時のシフトダウン制限警告ブザー（2ZR-FAE エンジン搭載車）

安全や走行性能を確保するため、シフト操作には制限があり、シフトレバーを操作してもシフトできない場合があります。シフト操作によるシフトダウンが行われない場合は警告ブザーが鳴ります。

■リバース警告ブザー

シフトレバーをＲに入れるとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■レーダークルーズコントロールを使用して走行しているとき（2ZR-FAE エンジン搭載車）

７速スポーツシーケンシャルシフトマチックモード走行時に M6、M5、M4 へシフトダウンしてもエンジンブレーキは効きません。

■シフトレバーを P からシフトできないときは

→P. 267

■シフトレバーをMにしても、シフトポジション・シフトレンジ表示灯のMが点灯しないときは (2ZR-FAE エンジン搭載車)

システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

この場合、シフトレバーを D にしているときと同じ制御になります。

■NAVI・AI-SHIFT *について

ナビゲーションシステムの機能を利用した、高度な自動変速制御の機能です。使用方法は別冊「ナビゲーションシステム取扱書」をご覧ください。

■M ポジションで走行中に停車したときは（2ZR-FAE エンジン搭載車）

・ 停車すると自動的に M1 にシフトダウンされます。
・ 停止後走行するときは M1 からの発進となります。
・ 停止時は M1 に固定されます。

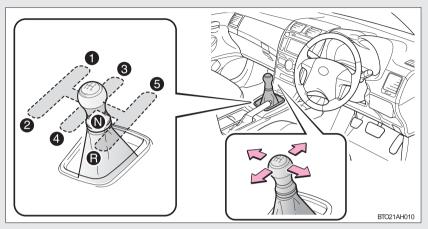
警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

＊ : 車両型式などで異なる装備やオプション装備

マニュアルトランスミッション*

■ シフトレバーの動かし方

クラッチペダルをしっかり踏みシフトレバーをゆっくり操作します。
誤操作を防ぐため、5 から R へは直接入れることができません。
いったん N に入れてから R にいれます。

各シフトの速度限界

エンジンを過回転させないために各シフト位置での速度が以下に記載してある数値をこえないようにしてください。

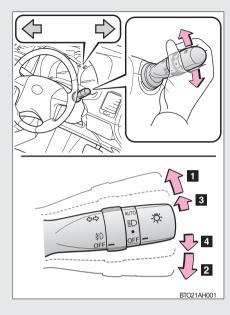
シフト位置	最高速度（km/h）
1	48
2	89
3	138
4	180

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告

■すべりやすい路面では

急なアクセル操作や、エンジンブレーキ力の急激な変化が横すべりやスピンの原因となりますので注意してください。

方向指示レバー

1 左折

2 右折

3 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

4 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

知識

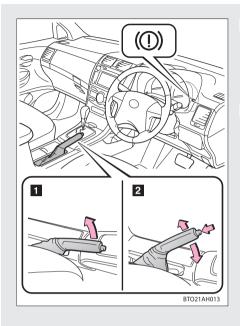
■作動条件

▶スマートエントリー＆スタートシステム装着車
“ エンジン スタート ストップ ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー＆スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが “ ON ” のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったときは

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

1 パーキングブレーキがかかる

ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキレバーをいっぱいまで引きます。

2 パーキングブレーキが解除される

レバーを少し引き上げ、ボタンを押しながら完全に下までもどします。

知識

■冬季のパーキングブレーキの使用について

「寒冷時の運転」（→P. 152）の記載を参照してください。

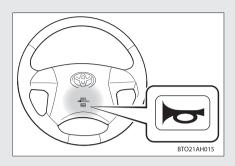
■パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー

→P. 241

注意

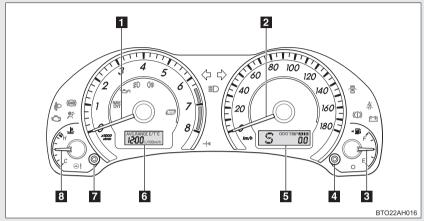
■走行前の注意

パーキングブレーキを完全に解除してください。
パーキングブレーキをかけたまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。

ホーン（警音器）

ハンドルの [ホーンマーク] 周辺部を押すとホーンが鳴ります。

知識

■ハンドル位置を調整したあとは

ハンドルが確実に固定されていることを確認してください。
固定が不十分だとホーンが鳴らない場合があります。（→P. 49）

計器類

▶ アナログメーター（ドライブモニター装着車）

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 表示切りかえボタン

オドメーター / トリップメーター表示の切りかえができます。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離を 0 にもどします。

5 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

6 ドライブモニター

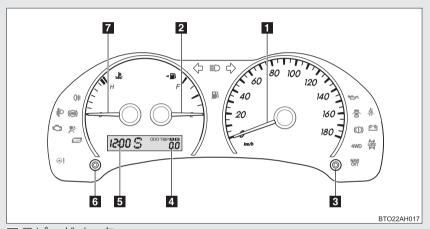
→P. 119

7 DISP ボタン

ドライブモニターの表示を切りかえます。

8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

▶ アナログメーター（ドライブモニター非装着車）

1 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

2 燃料計

燃料残量を示します。

3 表示切りかえボタン

オドメーター / トリップメーター表示の切りかえができます。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離を 0 にもどします。

4 オドメーター、トリップメーター

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

5 時計

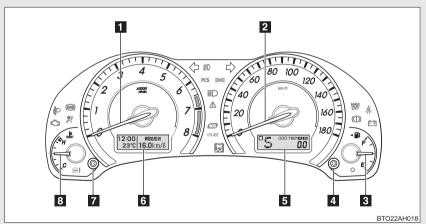
時刻を表示します。

6 時計調整ボタン

時刻を調整します。(→P. 114)

7 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

▶ オプティトロンメーター

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にするとメーターが点灯します。

1 タコメーター

毎分のエンジン回転数を示します。

2 スピードメーター

車両の走行速度を示します。

3 燃料計

燃料残量を示します。

4 表示切りかえボタン

オドメーター／トリップメーター／メーター照度調整表示の切りかえができます。また、トリップメーター表示中に長押しすると走行距離を 0 にもどします。

5 オドメーター、トリップメーター、メーター照度調整表示

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター

リセットしてからの走行距離を表示します。区間距離は、トリップ A、トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

● メーター照度調整表示

メーター照度の明るさを調整できます。

6 マルチインフォメーションディスプレイ

→P. 122

7 DISP ボタン

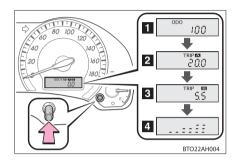
マルチインフォメーションディスプレイの表示を切りかえます。

8 水温計

エンジン冷却水の温度を示します。

表示切りかえボタン(オドメーター/トリップメーター/メーター照度調整)

ボタンを押すごとに以下のように切りかわります。

▶ タコメーター装着車

1 オドメーター

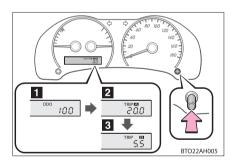
2 トリップメーターA※1

3 トリップメーターB※1

4 メーター照度調整表示※2(ヘッドライト点灯時のみ表示されます。)*

※1 長押しで0にもどります。

※2 長押しで照度を調整できます。

▶ タコメーター非装着車

1 オドメーター

2 トリップメーターA※3

3 トリップメーターB※3

※3 長押しで0にもどります。

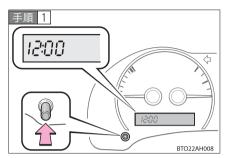
⚠ 注意

■エンジンや構成部品への損傷を防ぐために

●タコメーターの針がレッドゾーン(エンジンの許容回転数を超えている範囲)に入らないようにしてください。

●水温計の針がHのレッドゾーンに入ったときは、オーバーヒートのおそれがあるので、ただちに安全な場所に停車してください。(→P. 275)

*:車両型式などで異なる装備やオプション装備

時計の設定変更（タコメーター非装着車）

時計調整ボタンを押す

時計が点滅します。この状態で時計調整ボタンを長押しすると正時に合わせることができます。

手順 2 時計が点滅中に時計調整ボタンを押すと分表示が点滅する

手順 3 希望の数値になるまで時計調整ボタンを押して " 分 " を設定する

5 秒経過すると時表示が点滅します。

手順 4 希望の数値になるまで時計調整ボタンを押して " 時 " を設定する

5 秒経過すると時表示にもどります。

知識

■正時合わせついて

●0 ～ 29 分は切り下げられます。

●30 ～ 59 分は切り上げられます。

●（例）1：00 ～ 1：29 の場合は、1：00 に、1：30 ～ 1：59 の場合は、2：00 になります。

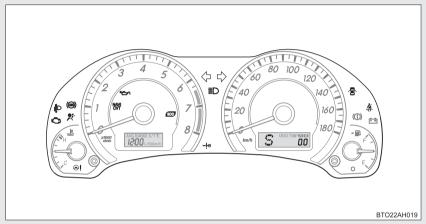
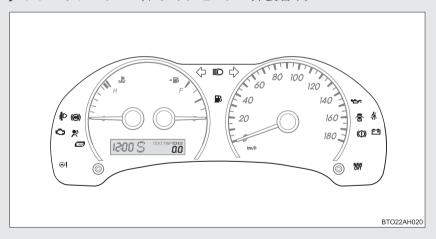
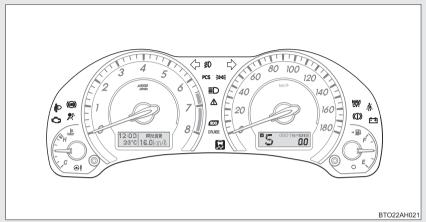
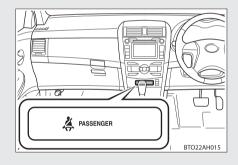
表示灯／警告灯

メーター・センターパネル内の表示灯・警告灯でお車の状況をお知らせします。

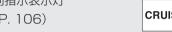
▶ アナログメーター（ドライブモニター装着車）

BTO22AH019

▶ アナログメーター（ドライブモニター非装着車）

BTO22AH020

▶ オプティトロンメーター

▶ センターパネル

■ 表示灯

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P. 106）

尾灯表示灯*（→P. 125）

ヘッドライト上向き表示灯（→P. 125）

フロントフォグライト表示灯*（→P. 129）

シフトポジション・シフトレンジ表示灯（→P. 100）

※ CRUISE クルーズコントロール表示灯*（→P. 132）

NAVI CVT NAVI CVT 表示灯*（→ 別冊「ナビゲーションシステム取扱書」参照）

※
スリップ表示灯*（→P. 143）
（点滅）

※

エコドライブインジケーターランプ*（→P. 85）

※

PCS 警告灯*（→P. 242）
（点滅または速い点滅）

※作動確認のために“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“ ON ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■警告灯

万一のシステム異常などを警告します。(→P. 241)

※作動確認のために“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチを“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)にすると点灯し、数秒後またはエンジンをかけると消灯します。
点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

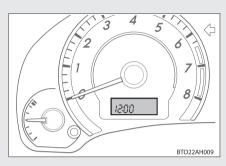
⚠警告

■安全装置の警告灯が点灯しないときは

ABS や SRS エアバックなどの安全装置の警告灯が、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード(スマートエントリー&スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチを“ON”(スマートエントリー&スタートシステム非装着車)にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

＊:車両型式などで異なる装備やオプション装備

ドライブモニター（アナログメーター）＊

ドライブモニターは、外気温、時刻や走行に関する様々な情報を表示します。

● 外気温表示（→P. 119）

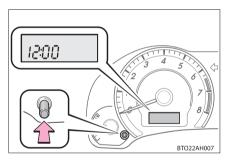
外気温を表示します。

● 時計表示（→P. 119）

時刻を表示します。

● トリップインフォメーション（→P. 120）

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

表示切りかえ

項目を切りかえるには、DISP ボタンを押します。

● 時計

現在の時刻を表示します。

● 外気温

外気温を表示します。

－ 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

● 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

リセットしてからの平均燃費を表示します。

- リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。
- 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

- 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
- 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

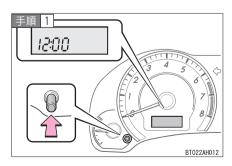
リセットしてからの平均車速を表示します。

リセットするには、平均車速表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

● 走行時間

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

時計の設定変更

ドライブモニターに時計を表示させる

DISP ボタンを長押しすると、時計が点滅します。この状態で DISP ボタンを長押しすると正時に合わせることができます。

手順 2 時計が点滅中に DISP ボタンを押すと分表示が点滅する

手順 3 希望の数値になるまで DISP ボタンを押して " 分 " を設定する

5 秒経過すると時表示が点滅します。

手順 4 希望の数値になるまで DISP ボタンを押して " 時 " を設定する

5 秒経過すると時表示にもどります。

知識

■正時合わせついて

●0 ～ 29 分は切り下げられます。

●30 ～ 59 分は切り上げられます。

●（例）1：00 ～ 1：29 の場合は、1：00 に、1：30 ～ 1：59 の場合は、2：00 になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うとき、以下のデータはリセットされます。

●時計

●平均燃費

●航続可能距離

●平均車速

●走行時間

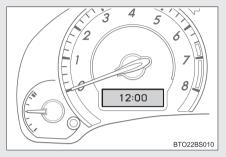
■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

マルチインフォメーションディスプレイ（オプティトロンメーター）

マルチインフォメーションディスプレイは、以下のような情報を表示します。

● 外気温表示

外気温を表示します。
− 40 ℃～ 50 ℃の間で表示します。

● 時計表示（→P. 122）

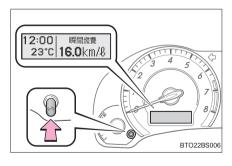
時刻を表示します。

● トリップインフォメーション（→P. 123）

航続可能距離や燃費など走行に関する情報を表示します。

● 警告メッセージ（→P. 246）

各システムに異常が発生すると自動で表示されます。

表示切りかえ

項目を切りかえるには、DISP ボタンを押します。

● 時計

12:34

現在の時刻を表示します。

● 瞬間燃費

12:00 瞬間燃費
23°C 18.0km/ℓ

現在の瞬間燃費を表示します。

● 平均燃費

12:00 平均燃費
23°C 16.5km/ℓ

リセットしてからの平均燃費を表示します。

・ リセットするには、平均燃費表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。
・ 表示される平均燃費は、参考として利用してください。

● 航続可能距離

現在の燃料残量で走行できるおよその距離を表示します。

・ 表示される距離は過去の平均燃費をもとに算出されるため、表示される距離を実際に走行できるとは限りません。
・ 燃料給油量が少量の場合、表示が更新されないことがあります。

● 平均車速

12:00 平均車速
23°C 60km

リセットしてからの平均車速を表示します。

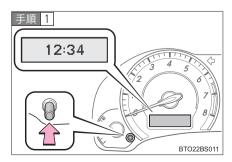
リセットするには、平均車速表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

● 走行時間

12:00 走行時間
23°C 43:21

リセットしてからの走行時間を表示します。

リセットするには、走行時間表示中に DISP ボタンを 1 秒以上押します。

時計の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイに時計を表示させる

DISP ボタンを長押しすると、時計が点滅します。この状態で DISP ボタンを長押しすると正時に合わせることができます。

手順 2 時計が点滅中に DISP ボタンを押すと分表示が点滅する

手順 3 希望の数値になるまで DISP ボタンを押して " 分 " を設定する

5 秒経過すると時表示が点滅します。

手順 4 希望の数値になるまで DISP ボタンを押して " 時 " を設定する

5 秒経過すると時表示にもどります。

知識

■正時合わせついて

●0 ～ 29 分は切り下げられます。

●30 ～ 59 分は切り上げられます。

●（例）1：00 ～ 1：29 の場合は、1：00 に、1：30 ～ 1：59 の場合は、2：00 になります。

■バッテリー端子の脱着をしたときは

バッテリー端子の脱着を行うと、時計、平均燃費、航続可能距離、平均車速、走行時間のデータはリセットされます。

■システムチェック表示

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ ON ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にしたとき、システムが正常に作動することを確認するため約 3 秒間「イニシャルチェック」と表示されます。チェックが終わると前に表示されていた画面表示になります。

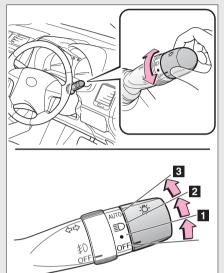
■外気温表示について

次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。

●停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき

●外気温度が急激に変化したとき（車庫、トンネルの出入り口付近など）

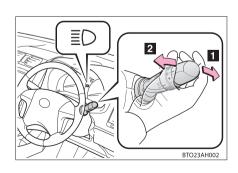
ライトスイッチ

自動*または手動でヘッドライトなどを点灯できます。

1 車幅灯・尾灯・番号灯・メーター照明（アナログメーターのみ）を点灯

2 上記ライトとヘッドライトを点灯

3 ヘッドライト、車幅灯などを自動点灯・消灯（コンライト*※）

※コンライトは“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッション ON モード(スマートエントリー＆ スタートシステム装着車)、またはエンジン スイッチが“ON”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）のとき使用できます。

ハイビームにする

1 ライト点灯時、レバーを前方に押しハイビームに切りかえ

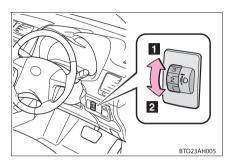
レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いている間、ハイビームを点灯

ライトが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどるまたは消灯します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

手動光軸調整ダイヤル（ハロゲンヘッドライト装着車）

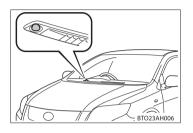
乗車人数や荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を調整することができます。

1 上向きに調整

2 下向きに調整

■ 目盛り設定の目安

乗員と荷物の条件		ダイヤル位置
乗員	荷物	
運転者	なし	0
運転者と助手席乗員	なし	0
全乗員	なし	2
全乗員	トランクルーム満載時	2.5
運転者	トランクルーム満載時	4

知識

■ライトセンサー＊

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光が遮られると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ライト消し忘れ防止機能

●“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードまたは OFF（スマートエントリー&スマートシステム装着車)、またはエンジン スイッチを“ACC”または“LOCK”（スマートエントリー&スマートシステム非装着車）にして運転席ドアを開けるとヘッドライト、尾灯が自動で消灯します。
再びライトを点灯する場合は、“エンジン スタート ストップ”スイッチをイグニッション ON モード（スマートエントリー&スマートシステム装着車)、またはエンジン スイッチ（スマートエントリー&スマートシステム非装着車）を“ON”にするか、一度ライトスイッチを OFF にもどし、再度 ● または ≣D の位置にします。(ディスチャージヘッドライト装着車)

●ヘッドライト、尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けるとランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。(ディスチャージヘッドライト非装着車)

■オートレベリングシステム（ディスチャージヘッドライト装着車）

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数、荷物の量などによる車の姿勢の変化にあわせて、ヘッドライトの光軸を自動で調整します。

■販売店で設定可能な機能

ライトセンサーの感度の設定などを変更できます。
(カスタマイズ一覧：→P. 290)

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でライトを長時間点灯しないでください。

フォグライトスイッチ＊

雨や霧などの悪天候下で視界を確保します。ヘッドライトまたは車幅灯が点灯しているとき使用できます。

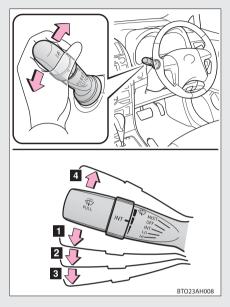
■ フロントフォグライトスイッチ

1 消灯

2 フロントフォグライト点灯

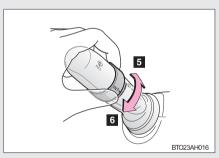
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ワイパー＆ウォッシャー

INTを選択しているとき、間欠作動の時間を調整することができます。

1 間欠作動（INT）

2 低速作動（LO）

3 高速作動（HI）

4 一時作動（MIST）

5 間欠ワイパーの作動頻度（減）*

6 間欠ワイパーの作動頻度（増）*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

7 ウォッシャー液を出す

ワイパーが連動して作動します。

知識

■作動条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがイグニッションONモードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ON”のとき

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

注意

■窓ガラスが乾いているときは

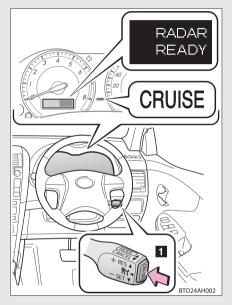
ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷つけるおそれがあります。

■ウォッシャー液が出ないときは

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

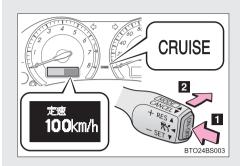
レーダークルーズコントロール ＊

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードで先行車の車速変化に合わせた追従走行をおこなったり、定速制御モードで一定の速度で走行できます。

■ 制御モードを選択する

車間制御モードを選択する

1 メインスイッチを ON にする

OFF にするには再びスイッチを押します。

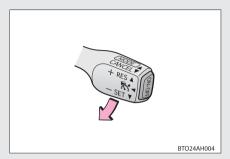
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

定速制御モードを選択する

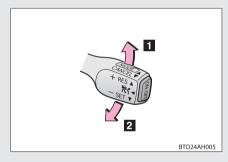
1 メインスイッチを ON にする

2 定速制御モードに切りかえ（約 1 秒間長押し）

OFF にするには再びスイッチを押します。

“エンジン スタート ストップ”スイッチが ON モードになるたびに車間制御モードに再設定されます。

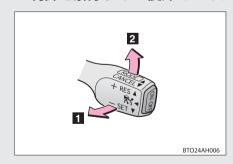
■ 選択したモード（車間制御・定速制御）で走行する

希望の速度まで加速 / 減速し、レバーを下げて速度を設定する

■ 設定速度を変えるには

1 増速

2 減速

表示が希望の車速になるまでレバーを保持します。

制御中にレバーを上または下に軽く操作して手を離せば、設定速度を微調整（約 1.5 km/h ずつ）できます。

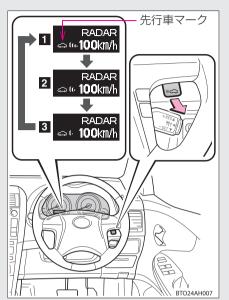
■ 制御を解除する・復帰させるには

1 解除

レバーを手前に引きます。

ブレーキを踏んだときも解除されます。

2 復帰

レバーを上げると、もとの制御状態にもどります。

■ 車間距離を変更するには（車間制御モード）

レバーを手前に引くごとに車間距離を切りかえる

1 長い

2 中間

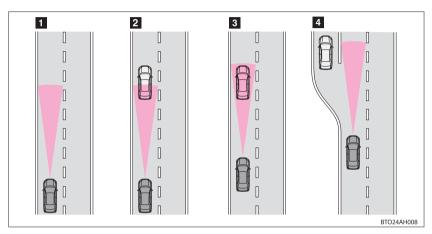
3 短い

“エンジン スタート ストップ”スイッチが ON モードになるたびに 1 に設定されます。

先行車がいる場合、先行車マークも表示されます。

車間制御モードでの走行

このモードではレーダーセンサーにより、車両前方約 100 m 以内の先行車を検知して、先行車の有無・先行車との車間距離を判定します。

長い下り坂を走行しているときは車間距離が短めになります。

1 定速走行（先行車がいないとき）：
100 km/h に設定した場合

運転者が設定した車速で定速走行します。

2 減速走行（設定した車速より遅い先行車が現れたとき）：
100 km/h で定速走行時に、80 km/h の先行車がいる場合

自車線に先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報（→P. 246）を鳴らします。

3 追従走行（設定した車速より遅い先行車に追従するとき）：
100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいる場合

先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるよう追従します。

4 加速走行（セットした車速より遅い先行車がいなくなったとき）：
100 km/h に設定しているときに、80 km/h の先行車がいなくなった場合

先行車が車線変更したときは設定車速までゆっくり加速し、定速走行にもどります。

知識

■レーダークルーズコントロールの警告灯・警告表示・警報

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告灯や警告表示、警報で注意をうながします。(→ P. 246)

■設定条件について

●シフトレバーが D または M の 4、5、6、7 レンジのとき設定できます。

●車速は約 45 km/h から 100 km/h の範囲で設定できます。

■アクセル操作

通常走行と同様にアクセルで加速できます。加速後、設定車速にもどります。

■車間制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に車間制御による走行が解除されます。

●車速が 40 km/h 以下になった

●VSC が働いた

●センサーが何かでふさがれて適切に働かない

●ワイパーが高速で作動した

その他の理由で車間制御走行が自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御走行の自動解除

以下のとき、自動的に定速制御が解除されます。

●設定速度より実際の車速が約 16 km/h 以上低下した

●車速が約 40 km/h 以下になった

●VSC が働いた

■車間距離選択の目安

以下の目安を参考に車間距離を選択してください。(→ P. 135)(車速 80 km/h で走行している場合)
なお、車速に応じて車間距離は増減します。

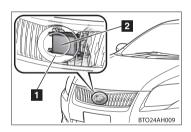
車間距離選択	車間距離
長	約 50 m
中	約 40 m
短	約 30 m

■レーダーセンサーとグリルカバーについて

車間制御を正しく働かせるためにセンサーとグリルカバーは常にきれいにしておいてください。(ビニールやつららや雪など、汚れ検知機能で検知できないものもあります。)
汚れを検知したときは、レーダークルーズコントロールは解除されます。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に心がけてください。
レーダークルーズコントロールは運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。したがって注意義務、危険性の判断、安全の確保は運転者が行う必要があります。なお、誤った使い方をしたり、操作慣れなどで注意を怠ったりすると思わぬ危険を招くことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。
システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容
レーダークルーズコントロールは、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■誤操作を防ぐために

レーダークルーズコントロールを使わないときはメインスイッチをOFFにしてください。

警告

■レーダークルーズコントロールを使用してはいけない状況

以下の状況では、レーダークルーズコントロールを使用しないでください。
適切な制御が行われず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●交通量の多い道
- ●急カーブのある道
- ●曲がりくねった道
- ●雨天時や、凍結路、積雪路などのすべりやすい路面
- ●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂
- ●高速道路の出入り口
- ●レーダーセンサーが正しく働かないような悪天候時（雨・霧・雪・砂嵐など）
- ●接近警報がひんぱんに鳴るとき

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

以下のような場合は、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→ P. 251）も作動しないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

- ●先行車が急に割り込んできたとき
- ●先行車が低速で走行中のとき
- ●停車中の車がいるとき
- ●先行車の車両の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）
- ●同じ車線を二輪車が走行中のとき

警告

■車間制御が正しく働かないおそれのある状況

以下の状況では、必要に応じてブレーキで減速してください。
レーダーセンサーが正常に車両を検知せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●周囲の車両より水や雪が撒き散らされ、レーダーセンサーの作動の妨げになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●カーブ路や車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や車線内の位置が一定でない場合

■レーダーセンサーを正しく働かせるためには

センサーとグリルカバーには以下のことをしないでください。
センサーが正しく働かず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●何か貼ったり、取り付ける

●汚れたままにしておく

●分解したり、強い衝撃を与える

●改造や塗装

●純正品以外の部品に交換する

●センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

警告

■レーダーセンサーの取り扱い

レーダークルーズコントロールが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

- センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく。
  お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。
- センサー周辺への強い衝撃を避ける。
  センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してもらってください。
- センサーを分解しない。
- センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を高めるため、走行状況に応じて以下の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などにより大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）*

急なハンドル操作やすべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）*

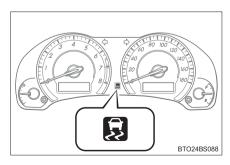
すべりやすい路面での発進時や加速時に前輪の空転を抑え、駆動力を確保します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ PCS（プリクラッシュセーフティーシステム）*

→ P. 146

VSC、TRC が作動しているとき

車両が横すべりしそうになったとき、前輪が空転したときは、VSC、TRC の作動を表示するためにスリップ表示灯が点滅します。

VSC の作動時、ブザー（断続音）が鳴ります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

知識

■ABS、ブレーキアシスト、VSC、TRC の作動音と振動

- エンジン始動時や発進直後や、ブレーキを繰り返し踏んだときに、エンジンルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。
- 上記のシステムが作動すると、以下のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。

  · 車体やハンドルに振動を感じる
  · 車両停止後もモーター音が聞こえる
  · ABS の作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
  · ABS の作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■EPS モーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音 (“ウィーン”という音) が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、オーバーヒートを避けるため EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。その場合は、ハンドル操作を控えるか、車を停車し、エンジンを切ってください。10 分程度でもとの状態にもどります。

警告

以下の状況では、事故が起き、その結果重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ABS の効果を発揮できないとき

- タイヤのグリップ性能の限界を超えたとき
- 雨で濡れた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

警告

■**ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなるとき**

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。以下の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥、砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差を越えたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

■**TRC の効果を発揮できないとき**

すべりやすい路面では、TRC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■**スリップ表示灯が点滅し、作動警告ブザーが鳴っているときは**

VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅し、ブザーが鳴ったら特に慎重に運転してください。

■**タイヤを交換するときは**

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー、ブランド、トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。（→P. 288）
異なったタイヤを装着すると、ABS、VSC が正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*

レーダーセンサーにより、前方の車両や障害物との衝突が予測されたときに、警報により運転者に対して回避操作をうながし、衝突の防止に役立ちます。前方の障害物と衝突の可能性が高い、または前方の障害物と衝突が避けられないと検知したとき、自動的にシートベルトやブレーキなどに働きかけ、被害軽減に貢献します。

■ プリクラッシュシートベルト

プリクラッシュセンサーにより衝突物が検知され、衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。
また、急ブレーキをかけたときや、車がコントロールを失ったときも同様に作動します。（→P. 45）

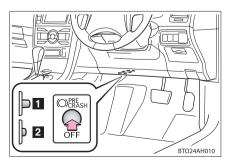
■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いときには、ブレーキペダルが踏まれる強さに反応してブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

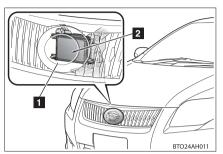
衝突の可能性が高いときに警告灯、警告表示、ブザー音で警報を行い、さらに衝突が避けられないと判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突速度を低減します。スイッチを使って、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

プリクラッシュブレーキの切りかえ

プリクラッシュブレーキ OFF スイッチを押すことにより、プリクラッシュブレーキの ON/OFF 切りかえができます。

1 プリクラッシュブレーキ ON

2 プリクラッシュブレーキ OFF

OFF にすると PCS 警告灯が点滅します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

レーダーセンサー

走行中に路上またはその付近に車や物があるかどうかを検知し、その物の位置や車速、進路から衝突するおそれがあるかどうか判断します。

1 グリルカバー

2 レーダーセンサー

知識

■センサーが検知しない場合

パイロンなどのプラスチック類は検知できません。人や動物、自転車、オートバイ、木、雪の吹きだまりなどは検知しないおそれがあります。

■システムの作動条件

●シートベルトの作動条件

・フロント席の乗員がシートベルトをつけている
・車速が約 5 km/h 以上
・自車からみた対向車か障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上

●ブレーキアシストへの作動条件：

・車速が約 30 km/h 以上
・自車からみた先行車や障害物の接近速度が約 30 ～約 40 km/h 以上
・ブレーキペダルが踏まれているとき

●ブレーキへの作動条件：

・プリクラッシュブレーキ OFF スイッチが押されていないとき
・自車速度が約 15 km/h 以上
・自車からみた先行車や障害物との接近速度が約 15 km/h 以上

■システムの作動しない環境

プリクラッシュセーフティシステムは、想定されてない状況では有効に作動しないこともあります。

- ●きついカーブや起伏がある場所
- ●凍結路や積雪路などのすべりやすい路面状態の場所
- ●交差点などで、自車の進行方向に急な飛び出しがある状況
- ●自車の進行方向に車の急な割り込みがある状況
- ●雨、霧、雪、砂嵐等の悪天候の状況
- ●車が横すべりしている状態

■システムの自動解除

システムの異常が検知された場合、センサーが障害物を検知できない状況（センサーの汚れなど）ではシステムの動作が自動的に解除されます。このような場合には衝突の可能性があってもシステムは有効に作動しません。

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動するとき

衝突の可能性がなくても、以下の場合、システムが作動することがあります。

- ●カーブ入り口に障害物があったとき
- ●カーブで、対向車とすれ違ったとき
- ●狭い鉄橋を走行したとき
- ●路面に金属物があったとき
- ●凹凸のある路面を走行したとき
- ●右折時に対向車とすれ違ったとき
- ●前を走っている車に急に近付いたとき
- ●立体交差・標識・看板などが進行方向に見えたとき
- ●上り坂走行中に看板などの上方金属物が前方に見えたとき
- ●ETC ゲートを高速で通過したとき

また、このとき、シートベルトがすばやく引き戻されたり、ブレーキをかけたときに通常よりブレーキが強くかかったりすることがあります。シートベルトが巻き取られた状態でロックした場合は車を安全な場所に止めてシートベルトをはずし、再度装着してください。

■システムに異常があるときは

警告灯や警告表示が点灯または点滅します。(→P. 241、246)

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
プリクラッシュセーフティシステムは運転者が衝突の危険を見逃してしまった場合に、警報やブレーキ制御により運転者を支援するものです。本システムだけで衝突を回避したり、安全に停止するというものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。また、状況によっては有効に機能しないことがあります。

■システムの支援内容に関する注意点

プリクラッシュセーフティシステムは、警報やブレーキ制御により衝突回避支援を行うために、運転者が「見る」、「判断する」、「操作する」過程で、支援を行います。システムの支援には限界があるため、以下の点に注意してください。

● 運転者が見る過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、前方の障害物を可能な範囲で検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

● 運転者が判断する過程での支援内容
プリクラッシュセーフティシステムは、検知しうる前方の障害物の情報のみから衝突の危険性を判断するものです。安全の確保の判断は運転者自らが行う必要があります。

● 運転者が操作する過程での支援内容
被害軽減制動制御は、衝突が避けられないと判断した段階で作動するもので、単独で衝突を回避したり、安全に停止させるものではありません。このため、危険性があれば自らが安全を確保する必要があります。

警告

■**レーダーセンサーの取り扱い**

プリクラッシュセーフティシステムが効果を発揮できるように以下のことをお守りください。

● センサーとグリルカバーは常にきれいにしておく
お手入れをする際は、センサーやグリルカバーを傷つけないよう、やわらかい布を使ってください。

● センサー周辺への強い衝撃を避ける
センサーの位置がずれると、システムに異常が起こるおそれがあります。強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店にて点検を受け、調整してください。

● センサーを分解しない

● センサーに貼られているラベルは電波法の基準に適合している証明ですので、はがさないでください。分解、改造すると電波法の基準に適合しなくなる場合があります。

● センサーやグリルカバー周辺にアクセサリーをつけたり、ステッカーを貼ったりしない

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは以下のことをお守りください。

● できるだけ荷物はトランクに積む

● 荷物が安全な位置に置かれているか確認する

● 走行中のバランスを維持するために重さが偏らないように積む

● 燃費が悪化しないようにするために、不要な荷物は積まないようにする

⚠ 警告

■積んではいけないもの

以下のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むときは

●以下の場所には荷物を積まないでください。
お守りいただかないと、ブレーキ・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあります。
・ 運転席足元
・ 助手席や後席（荷物を積み重ねる場合）
・ インストルメントパネル
・ ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。
安定していないと、急ブレーキや事故の際に投げ出され、乗員を傷つけるおそれがあります。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。
これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けるか最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいたうえで適切に運転してください。

■ 冬の前の準備

● 以下のものはそれぞれ外気温に適したものをお使いください。

・ エンジンオイル
・ 冷却水
・ ウォッシャー液

● バッテリーの液量・比重を点検してください。

● 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（前部タイヤ用）を用意してください。
タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを用意してください。（タイヤについて：→P. 197）

■ 運転する前に

状況に応じて以下のことを行ってください。

● ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。

● フロントウィンドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。

● 足まわりに氷がついているときは、氷を取り除いてください。

● フェンダー部分やブレーキ装置に雪や氷がついているときは、取り除いてください。

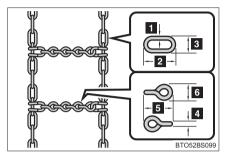
■ 運転するときは

ゆっくりスタートし、控えめな速度で走行してください。

■ 駐車するときは

パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトレバーをオートマチック車は P、マニュアル車は下り坂では R 上り坂では 1 速に入れて駐車し、輪止めをしてください。

タイヤチェーンの選択について

タイヤチェーンを装着する際は、正しいサイズのタイヤチェーンを使用してください。

サイドチェーン：

1 3.0mm

2 30.0mm

3 10.0mm

クロスチェーン：

4 4.0mm

5 25.0mm

6 14.0mm

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

●降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムでおおってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。

●高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については以下の指示にしたがってください。

・安全に作業できる場所でおこなう
・前 2 輪に取り付ける
・タイヤチェーンに付属の取扱書にしたがう
・取り付け後 0.5 ～ 1.0km 走行したら締めなおしをおこなう

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●指定サイズのタイヤを使用する
- ●空気圧を推奨値に調整する
- ●お使いになる冬用タイヤの最高許容速度や制限速度を超える速度で走行しない

■タイヤチェーン装着時の警告

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- ●装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30 km/h のどちらか低いほうを超える速度で走行しない
- ●路面の凹凸や穴を避ける
- ●急ハンドル、急ブレーキを避ける
- ●カーブの入り口手前で十分減速して車のコントロールを失うのを防ぐ

■駐車時の警告

パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、必ず輪止めをしてください。輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。
トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると、車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■フロントウインドウガラスについた氷を除去するときは

たたいて割らないでください。
ウィンドウガラスの内側（車内側）が割れるおそれがあります。

室内装備の使い方 3

3-1. エアコン・デフォッガーの使い方

3-2. 室内灯のつけ方

3-3. 収納装備の使い方

3-4. その他の室内装備の使い方

マニュアルエアコン*

吹き出し口切りかえダイヤル

風量調節ダイヤル

温度調節ダイヤル

外気導入・内気循環切りかえ

エアコン ON・OFF

BTO31AH001

エアコンの設定

■ 風量をかえるには

風量調節ダイヤルを右（増）か左（減）へまわす

送風を止めるときはダイヤルを0の位置に合わせる

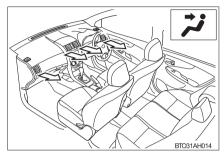
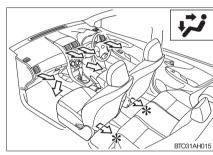
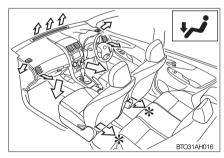
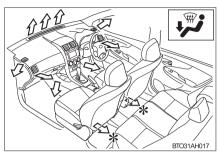
■ 温度をかえるには

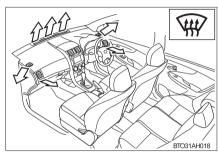
温度調節ダイヤルを右（暖）か左（冷）へまわす

が押されてない場合は送風または暖房で使用できます。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■吹き出し口を切りかえるには

吹き出し口切りかえダイヤルをまわし吹き出し口を選ぶ

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

ガラスの曇りを取る

自動的に外気導入に切りかわります。

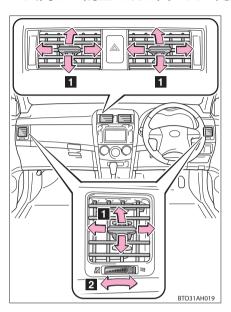
A/C を押してエアコンを ON にすると曇りが早く取れます。

＊一部車種のみ

■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

 を押す

ボタンを押すごとに外気導入・内気循環が切りかわります。内気循環を選択しているときは、 の表示灯が点灯します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■外気温度が0℃以下のとき

 を押してもエアコンは作動しません。

■吹き出し口を にしたとき

頭寒足熱を目的とした吹き出し口であり、温度調整ダイヤルの位置によっては、足元には、上半身に送風される風よりも暖められた風が送風されます。

■エアコンの臭いについて

- エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。
- エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

警告

■フロントガラスの曇りを防止するために

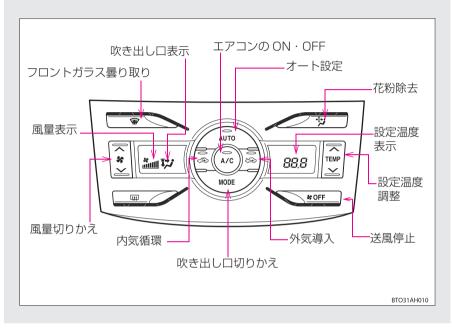
湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、吹き出し口切りかえダイヤルをガラスの曇り取りの位置に合わせないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

オートエアコン*

設定温度にあわせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

オート設定を使うとき

手順 1 　AUTO　を押す

吹き出し口と風量が自動で調整されます。

手順 2 設定温度を上げるときは の∧を、下げるときは∨を押す

手順 3 　A/C　を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

お好みの設定で使うとき

■ エアコンの ON・OFF を切りかえるには

を押す

ボタンを押すたびにエアコンの ON・OFF が切りかわります。

■ 設定温度をかえるには

設定温度を上げるときは

の∧を、下げるときは∨を押す

■ 風量をかえるには

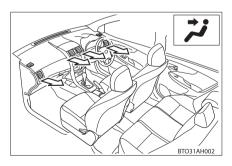
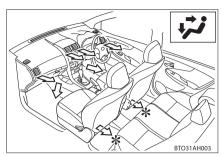
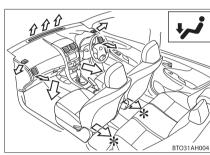
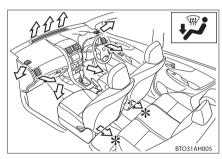
の ∧（増）か ∨（減）を押す

風量は７段階に調整できます。

送風を止めるときは OFF を押す

■ 吹き出し口を切りかえるには

MODE を押す

押すたびに吹き出し口が切りかわります。

上半身に送風

上半身と足元に送風

足元に送風

足元に送風・ガラスの曇りを取る

＊一部車種のみ

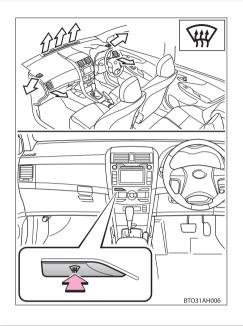
■ 外気導入・内気循環を切りかえるには

内気循環に切りかえるには、を押す

外気導入に切りかえるには、を押す

フロントガラスの曇りを取るには

を押す

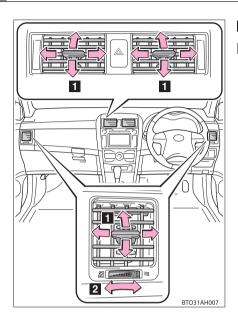
エアコンが作動します。

曇りが取れたら再度 を押すと前のモードにもどります。

花粉除去機能を使うには

を押す

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。通常約３分後に（外気温が低いときは 約１分後に） を押す前のモードにもどります。

途中で動作を止めるときは再度 を押すと前のモードにもどります。

風向きの調整と吹き出し口の開閉

1 風向きの調整

2 吹き出し口の開閉

知識

■オート設定の作動について

以下のような制御をする場合があります。

●外気温が高いとき設定温度を下げると内気循環に切りかわる

● を押した直後しばらく送風が停止する

●暖房時、冷風を上半身に向けて送る

■内気循環について

内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントガラスの曇りを取るとき

内外気の温度によって自動的に外気導入に切りかわる場合があります。外気温度が0℃以下のとき

を押してもエアコンは作動しません。

■花粉除去モードについて

外気温が低いときは、ガラスの曇り防止のために以下のような作動をすることがあります。

●内気循環に切りかわらない

●エアコンの電源が自動的に入る

湿度が非常に高いときに使うとガラスが曇る場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■エアコンの臭いについて

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、駐車時は外気導入にしておくことをおすすめします。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時にはエアコン始動直後、しばらく送風が停止する場合があります。

警告

■**フロントガラスの曇りを防止するために**

湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは［デフロスタースイッチ］を押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り視界を妨げる場合があります。

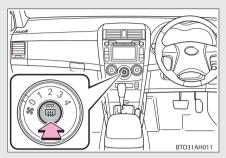
注意

■**バッテリーあがりを防ぐために**

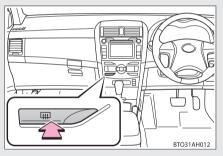
エンジン停止中はエアコンを使用しないでください。

リヤウインドウデフォッガー（曇り取り）

リヤウインドウの曇りを取るときにお使いください。

▶ マニュアルエアコン装着車

オン／オフ

寒冷地仕様車では、リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

▶ オートエアコン装着車

オン／オフ

寒冷地仕様車では、リヤウインドウデフォッガーは、約 15 分で自動的にオフになります。

知識

■ミラーヒーターについて

ミラーヒーター装着車は、リヤウインドウデフォッガーを ON にするとミラーヒーターも同時に作動します。

警告

■ミラーヒーター作動中の警告

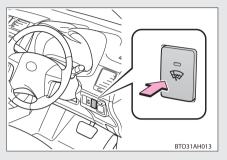
ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

連続して長時間使用すると、バッテリーあがりの原因となります。

フロントワイパーデアイサー*

フロントガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐためにお使いください。

オン／オフ

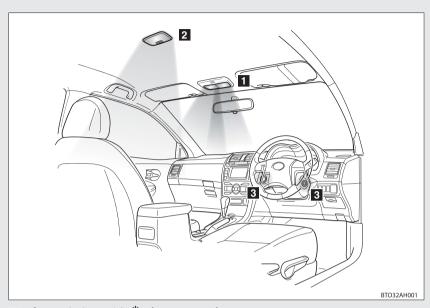
フロントワイパーデアイサーは、約 15 分で自動的にオフになります。

⚠ 警告

■作動中の警告

フロントウインドウガラス下部および運転席側フロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

室内灯一覧

1 パーソナルライト*（→P. 172）
2 ルームライト（→P. 172）
3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明
（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）
エンジン スイッチ照明
（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

知識

■バッテリーあがりを防ぐために

半ドア状態でルームライトスイッチがドアポジションのときに、ルームライトと “ エンジン スタート ストップ ” スイッチ照明（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）または、エンジン スイッチ照明（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

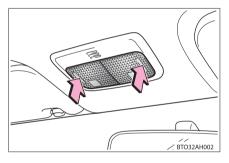
*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

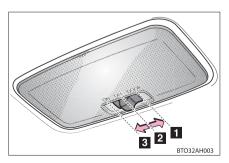
■販売店で設定可能な機能

室内灯の消灯までの時間などの設定を変更できます。
（カスタマイズ一覧：→P. 290）

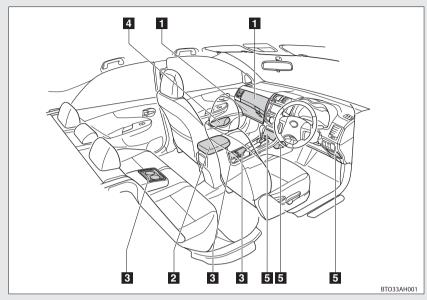
■イルミネーテッドエントリーシステム

ルームライトスイッチがドアポジションのときは、電子キーの検知*、ドアの施錠・解錠、開閉、“ エンジン スタート ストップ ” スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチ（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）の状態により、各部照明が自動的に点灯、消灯します。

パーソナルライト*

点灯 / 消灯

ルームライト

1 ドアポジション（ドア連動）
2 OFF
3 ON（点灯）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

収納装備一覧

1 助手席アッパーボックス・グローブボックス

2 コンソールボックス*

3 カップホルダー*

4 ボトルホルダー

5 小物入れ

警告

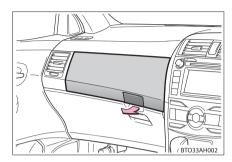
■収納装備に放置してはいけない物

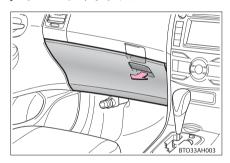
メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。放置したままでいると、以下のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れをおこす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

助手席アッパーボックス・グローブボックス

▶ 助手席アッパーボックス

レバーを引き上げる

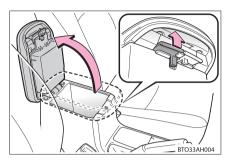
▶ グローブボックス

レバーを引き上げる

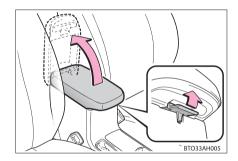
⚠ 警告

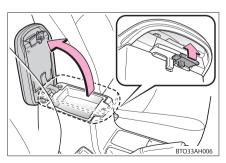
■走行中の警告

助手席アッパーボックス・グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いた助手席アッパーボックス・グローブボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

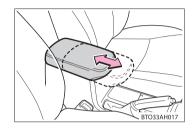
コンソールボックス

▶ コンソールボックス（スライド機能装着車）

運転席側のレバーを引いてフタを持ち上げる

▶ コンソールボックス（スライド機能非装着車）

レバーを引いてフタを持ち上げる

▶ 上段ボックス（スライド機能装着車）

助手席側のレバーを引いてフタを持ち上げる

知識

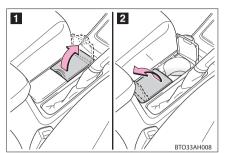
■コンソールボックスのフタについて

フタを前後にスライドさせることができます。（スライド機能装着車）

警告

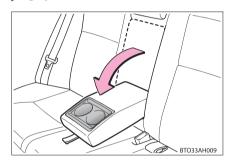
■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたコンソールボックスに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント

1 前側のフタを開ける

2 後側のフタを開ける

▶ リヤ*

リヤセンターアームレストを引き出す

⚠ 警告

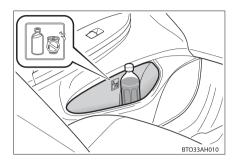
■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

フタを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたフタに体があたるなどして、思わぬけがをするおそれがあり危険です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ボトルホルダー

知識

■ボトルホルダーについて

●ペットボトルのフタを必ず閉めてから収納してください。

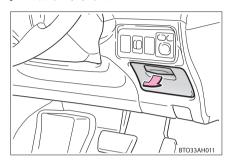
●ペットボトルの大きさ、形によっては収納できないことがあります。

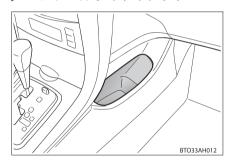
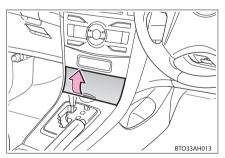
注意

■収納してはいけないもの

ボトルホルダーには、ジュースなどが入っている紙コップやガラス製のコップなどを収納しないでください。ジュースなどがこぼれたり、ガラス製品が割れたりするおそれがあります。

小物入れ

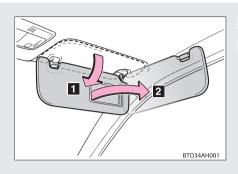
▶ マルチボックス

ツマミを引いて開ける

▶ コンソールサイドポケット

▶ センターボックス

ツマミを引いて開ける

警告

■**走行中の警告**

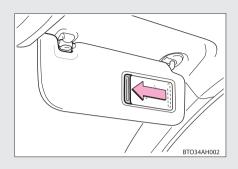
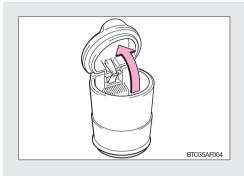
小物入れを開けたままにしないでください。
急ブレーキ時などに、開いた小物入れに体があたったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

サンバイザー

1 下ろす

2 下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラー*

カバーを開けて使用します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

移動式灰皿＊

知識

■収納場所について

カップホルダーやボトルホルダーに収納できます。

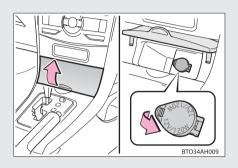
注意

■出火を防ぐために

- マッチ、タバコなどの火は必ず消してから灰皿の中に入れ、確実に閉めてください。
- 灰皿の中に紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

アクセサリーソケット

12 V 10 A 未満の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

知識

■使用条件

▶スマートエントリー&スタートシステム装着車
“エンジン スタート ストップ”スイッチがアクセサリーモード、またはイグニッション ON モードのとき

▶スマートエントリー&スタートシステム非装着車
エンジン スイッチが“ACC”または“ON”のとき

注意

■ショートや故障を防ぐために

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときは、フタを閉めておいてください。

■ヒューズが切れるのを防ぐために

12V 10A を超えないようにしてください。

■バッテリーあがりを防止するために

エンジンを停止した状態でアクセサリーソケットを長時間使用しないでください。

アームレスト*

引き出して使用します。

⚠ 注意

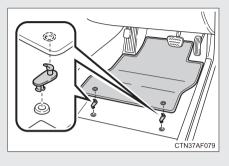
■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

フロアマット

お車（年式）専用のものを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

CTN37AF079

フロアマット付属の固定フック（クリップ）を使用して固定してください。

固定フック（クリップ）の形状およびフロアマットの固定方法はイラストと異なる場合があります。詳しい固定方法はフロアマット付属の取扱書をご確認ください。

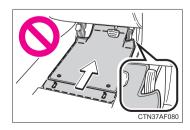
⚠ 警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、重大な事故につながるおそれがあります。

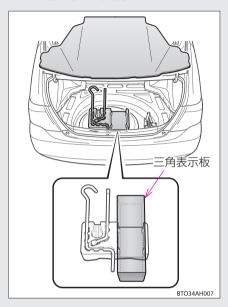
■運転席にフロアマットを敷くときは

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 付属のフック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

■運転する前に

CTN37AF080

- フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車や清掃後は必ず確認を行う
- エンジン停止およびシフトレバーが P（オートマチック車）または N（マニュアル車）の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

トランク内装備

■ 三角表示板収納スペース

三角表示板を収納することができます。

知識

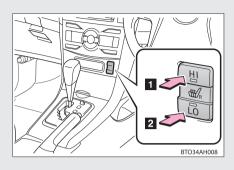
■収納について

三角表示板のケースの大きさ形によって収納できない場合があります。

警告

■三角表示板を収納するときは

確実に固定されていることを確認してください。
確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し思わぬ事故につながるおそれがあります。

シートヒーター*

1 HI（強）

2 LO（弱）

シートヒーターが作動しているときは、表示灯が点灯します。

知識

■使用条件

“ エンジン スタート ストップ ” スイッチがイグニッション ON モードのとき

■シートヒーターについて

●HI（強）にすると、シートの肩部分と背もたれ全体、およびクッション部を暖めます。

●LO（弱）にすると、シートの肩部分と背もたれ中央部のみを暖めます。

警告

■やけどを防ぐために

●低温やけどを負うおそれがあるため、以下のかたは特にご注意ください。

・ 乳幼児、お子さま、お年寄り、病人、体の不自由なかた
・ 皮膚の弱いかた
・ 疲労の激しいかた
・ 深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬、風邪薬など）を服用されたかた

●シートに毛布、クッションなどを使用しないでください。
シートヒーターの使用により保温性が高まり異常過熱の原因になります。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

注意

■**シートヒーターの故障を防ぐために**

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■**バッテリーあがりを防止するために**

エンジンが停止しているときはスイッチをオフ（中立）にしてください。

お手入れのしかた　4

4-1. お手入れのしかた

4-2. 簡単な点検・部品交換

外装の手入れ

お手入れは、以下の項目を実施ください。

● 水を十分かけながら車体、足まわり、下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす。

● 車体はスポンジやセーム皮のような柔らかいもので洗う。

● 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す。

● 水をふき取る。

● 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけをおこなう。

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているとき（およそ体温以下を目安としてください。）にワックスをかける。

なお、ボディコート、ホイールコート、ガラスコートなどトヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■自動洗車機を使うときは

●洗車する前に、ミラーを格納してください。

●ブラシで車体に傷がつき、塗装を損なうことがあります。

●リヤスポイラー装着車はスポイラーがひっかかり洗車できない場合や傷付いたり破損するおそれがあります。

■高圧洗車機を使うときは

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアガラスやドア枠付近に近づけすぎないでください。自動洗車機に入れる前に車両の給油口がしっかり閉まっていることを確認してください。

■アルミホイール

●中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。研磨剤の入った洗剤や硬いブラシは塗装を傷めますので使用しないでください。

●夏場の長距離走行後などでホイールが熱いときは、洗剤は使用しないでください。

●洗剤を使用した後は早めに十分洗い流してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■ドアミラーの親水コーティングについて

親水膜の効果を持続させるため、以下のことに注意してください。

●シリコーンやコンパウンドの入っていないカーシャンプーやガラスクリーナーで清掃し、十分に水で洗い流す

●晴天時に太陽光を 1・2 日間当てる

■レインクリアリングミラーの親水効果回復作業について

鏡面の親水効果は、太陽光をあてることにより徐々に回復します（→ P. 52）が、早く回復させたいときは次の作業を行ってください。

手順 1 鏡面に水をかけ、泥汚れなどを洗い流す

手順 2 水を含ませたきれいな柔らかい布などで汚れを落とす

手順 3 ガラスクリーナーか中性洗剤で洗浄後、十分な水で洗剤を洗い流す

手順 4 きれいな柔らかい布などで鏡面についた水をふき取る

手順 5 屋外に車両を駐車し、鏡面に太陽光を 5 時間程度あてる
（汚れの量や種類により、回復時間は異なります。）

警告

■**洗車をするときは**

エンジンルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**排気管について**

排気管は排気ガスにより熱くなりますので、エンジン停止直後などにふれないでください。やけどをするおそれがあります。

注意

■**塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために**

●次のような場合はただちに洗車してください。

・海岸地帯を走行したあと
・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
・コールタール、花粉、樹液、鳥のふん、虫の死がいなどが付着したとき
・ばい煙、油煙、粉じん、鉄粉、化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
・ほこり、泥などで激しく汚れたとき
・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき

●塗装に傷がついた場合は、早めに補修してください。

●ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

■**ライトの清掃**

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。ライトを損傷させるおそれがあります。

●ライトにワックスがけをおこなわないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

内装の手入れ

お手入れは、以下の要領で実施ください。

■ 室内の手入れ

掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る。

■ 合成皮革部分の手入れ

- 掃除機をかけて、大まかな汚れを取る
- スポンジや柔らかい布を使用して合成皮革部分に刺激の少ない洗剤をつける
- 数分間そのままにしておいてから汚れを落とし、固く絞ったきれいな布で洗剤をふき取る

知識

■カーペットの洗浄

市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。
スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げます。円を描くように塗りこんでください。水はかけないでください。できるだけ乾いたままにしておくのが最も効果的です。

■シートベルト

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布かスポンジを使って洗ってください。シートベルトの擦り切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。(→ P. 43)

警告

■車両への水の浸入

- 車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品やワイヤをぬらさないでください。(→ P. 64)
  電気の不具合により、エアバッグが展開したり、正常に機能しなくなり、死亡事故や重傷につながるおそれがあります。

警告

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害もしくは死亡におよぶおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

●変色・シミ・塗装はがれの原因になるため、以下の溶剤は使用しないでください。

・シート以外の部分：ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸またはアルカリ性の溶剤、染色剤、漂白剤

・シート部分：シンナー、ベンジン、アルコール、その他の揮発性の溶剤

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みをさけるために

革の部分の損傷・消耗をさけるために、以下のことをお守りください。

●革についたほこりや砂はすぐに取り除く。

●直射日光に長時間さらさないようにする。特に夏場は日陰で車を保管する。

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革にはり付くおそれがあるため、革張りの上に置かない。

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線を損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線にそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽く拭いてください。

●熱線を引っかいたり、損傷させないように気をつけてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務づけられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 5,000 km ごとにおこなってください。

■ タイヤの点検項目

タイヤは以下の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」をお読みください。

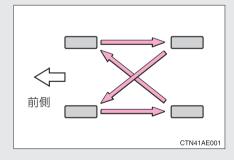
● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

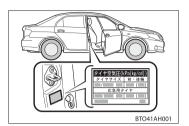
● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

■ タイヤローテーションのしかた

図で示す順にタイヤをローテーションしてください。

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命を延ばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションを推奨します。

知識

■タイヤ空気圧の数値

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

<table>
<tr><th colspan="2" rowspan="2">タイヤサイズ</th><th colspan="2">タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm²)</th></tr>
<tr><th>前輪</th><th>後輪</th></tr>
<tr><td rowspan="2">標準タイヤ</td><td>185/65R15 88S</td><td colspan="2">240 (2.4)</td></tr>
<tr><td>195/65R15 91S</td><td colspan="2">210 (2.1)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">スペアタイヤ</td><td>T125/70D16 96M</td><td colspan="2" rowspan="2">420 (4.2)</td></tr>
<tr><td>T135/80D16 101M</td></tr>
</table>

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検、交換時の警告

必ず以下のことをお守りください。
守らないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、死亡事故や負傷につながるおそれがあります。

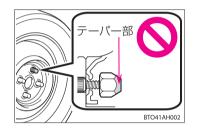
- タイヤは全て同一メーカー、同一銘柄、同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用してください。
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しないでください。
- ラジアルタイヤ、バイアスベルテッドタイヤ、バイアスプライタイヤを混在使用しないでください。
- サマータイヤ、オールシーズンタイヤ、冬用タイヤを混在使用しないでください。

警告

■**異常があるタイヤの使用禁止**

異常があるタイヤをそのまま装着していると走行時にハンドルを取られたり、異常な振動を感じることがあります。また、以下の事態になり、思わぬ事故になるおそれがあります。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車が横すべりする
- 車の本来の性能（燃費、車両の安定性、制動距離など）が発揮されない

■**タイヤ交換時の注意**

- 必ずナットのテーパー部を内側にして取り付けてください。テーパー部を外側にして取り付けると、ホイールが破損しはずれてしまい、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- ねじ部にオイルやグリースをぬらないでください。
  ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。また、ナットがゆるみホイールが落下して、重大な事故につながるおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

注意

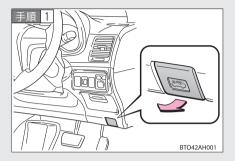
■**走行中に空気漏れが起こったら**

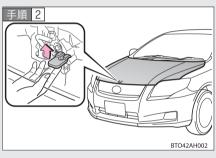
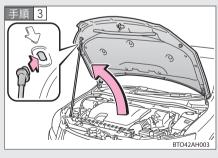
走行を続けないでください。
タイヤまたはホイールが損傷することがあります。

■**悪路走行に対する注意**

凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ、ホイール、車体などの部品も損傷するおそれがあります。

ボンネット

室内からロックを解除して、ボンネットを開けます。

ボンネットオープナーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

レバーを引き上げてボンネットを開ける

ボンネットステーをステー穴に挿し込む

知識

■バッテリー端子をはずすときは

バッテリー端子をはずすとコンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリー端子をはずすときはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■**走行前の確認**

ボンネットがしっかりロックされていることを確認ください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、生命にかかわる重大な傷害につながるおそれがあります。

■**エンジンルームを点検したあとは**

エンジンルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認ください。
点検や清掃に使用した工具や布などをエンジンルーム内に置き忘れていると、故障の原因となったり、また、エンジンルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■**ボンネットを閉めるときは**

ボンネットを閉めるときは、手などを挟まないように注意してください。
重大な障害を受けるおそれがあり危険です。

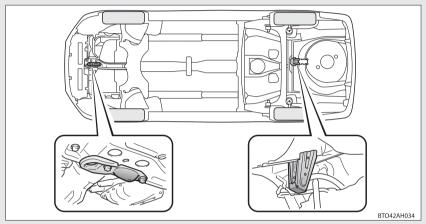
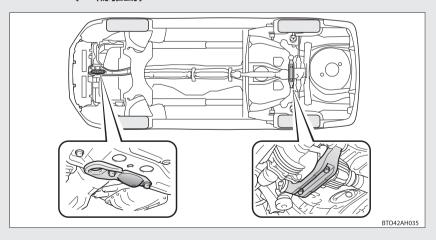
注意

■**ボンネットへの損傷を防ぐために**

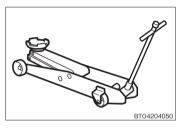
ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキを取り付けてください。
正しい位置に取り付けないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

■ FF(前輪駆動）

■ 4WD（4 輪駆動）

警告

■**車両を持ち上げるときは**

死亡または重大な傷害の危険性を低下させるために、以下のことをお守りください。

●図のようなガレージジャッキを使用して車両を持ち上げてください。

●ガレージジャッキを使用するときは、必ずガレージジャッキ付属の取扱説明書を十分確認の上、使用する

●車に搭載されているジャッキを使用しない
車両が落下するおそれがあります。

●ガレージジャッキのみで支えられた車両の下に体の一部を入れたり、もぐり込んだりしない

●ガレージジャッキおよび、自動車用ジャッキスタンドをしっかりとした傾きのない平坦な床面で使用してください。

●車両がジャッキアップされた状態でエンジンを始動しない

●平らで硬い地面に車両を停車させ、しっかりとパーキングブレーキをかけ、オートマチック車はシフトレバーを P、マニュアル車はシフトレバーを R にする

●ガレージジャッキは、必ずジャッキアップポイントに正しくセットする
ガレージジャッキを正しくセットせずに車両を持ちあげると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●車内に乗員がいるときは車両を持ちあげない

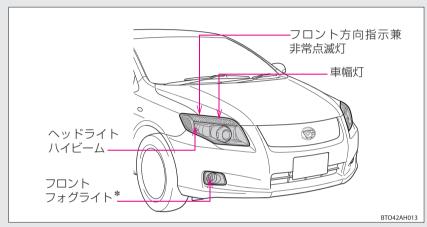
●車両を持ちあげるときは、ガレージジャッキの上下にものを置かない

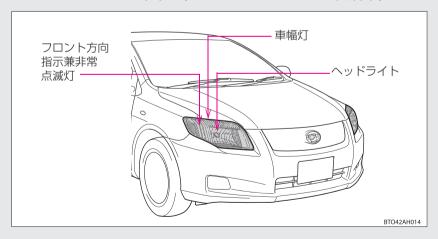
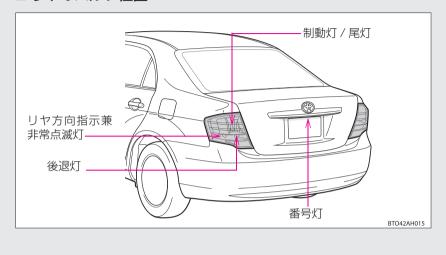
電球（バルブ）の交換

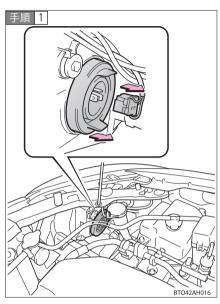
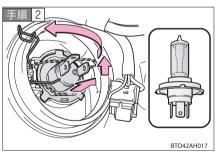
以下に記載する電球は、ご自身で交換できます。詳細が不明な場合やその他の電球交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

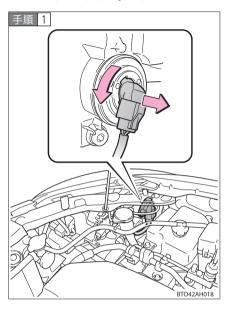
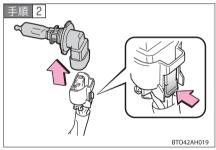
■ 電球の用意

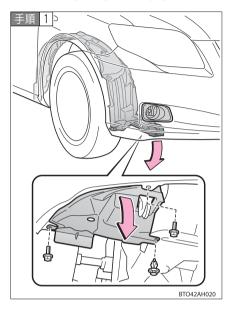
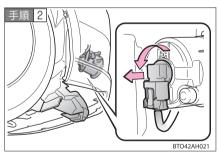
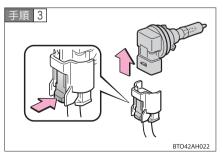
切れた電球の W 数を確かめてください。(→P. 288)

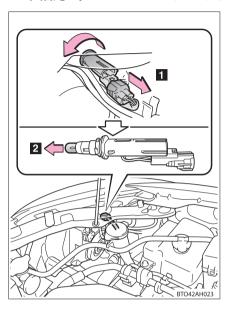
■ フロントのバルブ位置（ディスチャージヘッドライト装着車）

■ フロントのバルブ位置（ハロゲンヘッドライト装着車）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

■ リヤのバルブ位置

電球交換のしかた

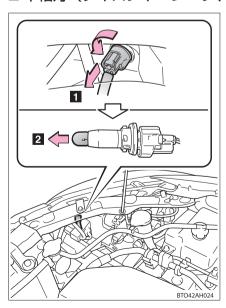
■ ヘッドライト（ハロゲンヘッドライト装着車）

コネクターとゴムカバーを取りはずす

止め金をはずし、電球を取りはずす

■ ヘッドライト（ディスチャージヘッドライト装着車のハイビーム）

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

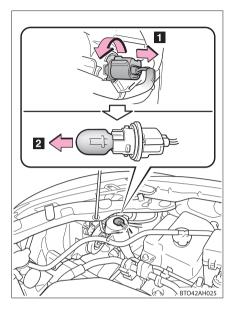
■ フロントフォグライト

ボルトとクリップを取りはずし、フェンダーライナーをめくる

ソケットを取りはずす

電球を取りはずす

■ 車幅灯（ハロゲンヘッドライト装着車）

1 ソケットを取りはずす

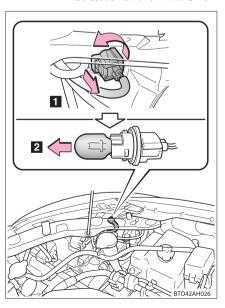
2 電球を取りはずす

■ 車幅灯（ディスチャージヘッドライト装着車）

1 ソケットを取りはずす

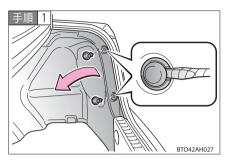
2 電球を取りはずす

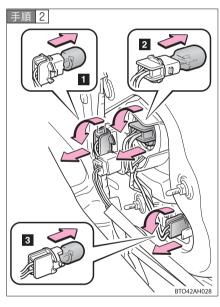
■ フロント方向指示兼非常点滅灯（ハロゲンヘッドライト装着車）

1 ソケットを取りはずす

2 電球を取りはずす

■ フロント方向指示兼非常点滅灯（ディスチャージヘッドライト装着車）

1 ソケットを取りはずす

2 電球を取りはずす

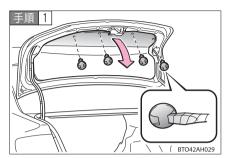
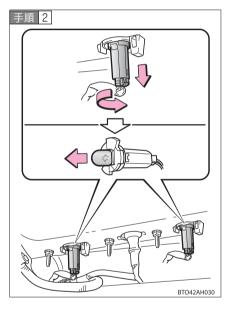
■ 後退灯、尾灯、制動灯、リヤ方向指示兼非常点滅灯

トランクを開け、クリップをはずし内張りをはがす

クリップは中心部を引き出してロックをはずし引き抜きます。

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

1 リヤ方向指示兼非常点滅灯

2 制動灯 / 尾灯

3 後退灯

■ 番号灯

トランクを開け、クリップをはずし内張りをはがす

ソケットを取りはずし、電球を取りはずす

■ その他の電球

以下の電球が切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドライトロービーム（ディスチャージヘッドライト装着車）
- サイド方向指示灯兼非常点滅灯
- ハイマウントストップライト

知識

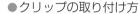
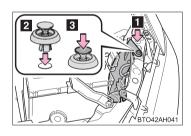
■左側のヘッドライト、車幅灯、フロント方向指示兼非常点滅灯を交換するときは

エアクリーナーダクトの上部の固定クリップをはずしてダクトをはずしてから交換します。

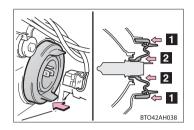
交換後は、必ずエアクリーナーダクトをしっかり取り付け上部をクリップで固定してください。

●エアクリーナーダクトの上部の取りはずし方

1 クリップの中心を押す
2 クリップを引き抜く
3 ダクトをはずす

●クリップの取り付け方

1 ダクトを取り付ける
2 クリップを挿し込む
3 クリップの中心を押す

■ハロゲンヘッドライト装着車のゴムカバーを取り付けるときは

確実にはめ込まれていることを確認してください。

1 ゴムカバーの外周をしっかりとはめ込む

2 ゴムカバー内周（電球周り）を全周にわたり電球の金具部分が確認できるまで押し込む。

■レンズ内の水滴と曇り

以下のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。ただし、レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。

- レンズ内側に大粒の水滴がついている
- ライト内に水がたまっている

■ディスチャージヘッドライトの作動

作動電圧範囲をはずれると、ライトが消灯したり、点灯しなくなります。
電圧が正常にもどると再点灯します。

警告

■電球を交換するときは

●ライトは消灯してください。消灯直後は熱いため、交換しないでください。
やけどすることがあります。

●電球のガラス部を素手でふれないでください。
プラスチック部または金属ケース部を持ってください。また、電球を傷つけたり、落下させたりすると球切れしたり破裂することがあります。

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、もしくはヘッドライト内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

●電球、ソケット、電気回路、および構成部品を、修理または分解しないでください。
感電による重大な傷害の原因となります。

■ディスチャージヘッドライトについて

●交換するとき（電球交換含む）は、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●点灯中は、高電圧ソケットにふれないでください。
瞬間的に 2 万ボルトの電圧が発生するため、感電による重傷の原因となることがあります。

注意

■お車の故障や火災を防ぐために

●電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認ください。

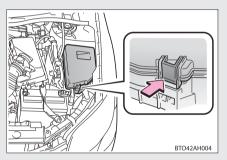
●ドライバーにテーピングをしてからはずしてください。
クリップなどに傷が付くおそれがあります。

ヒューズの点検、交換

ライトが点灯しないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ LOCK ”（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）にする

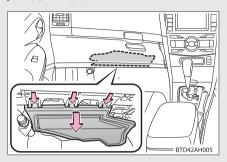
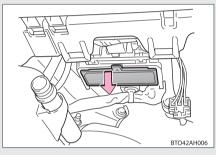
手順 2 ヒューズボックスを開ける

▶ エンジンルーム

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 助手席足元

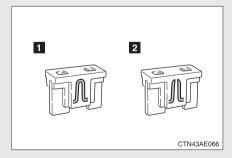
BTO42AH005

1 足元のカバー*を取りはずす

BTO42AH006

2 ヒューズボックスカバーを取りはずす

手順 3 故障の状況から、点検すべきヒューズを「ヒューズの配置と負荷」(→P. 218)で確認する

手順 4 ヒューズが切れていないか点検する

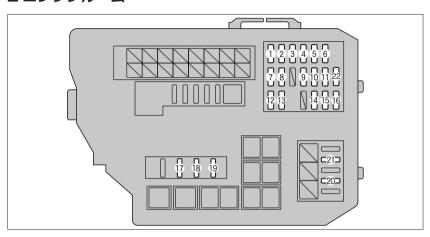
CTN43AE066

1 正常

2 ヒューズ切れ

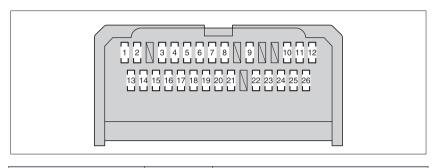
ヒューズボックスの表示にしたがい、規定容量のヒューズに交換します。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ヒューズの配置と負荷

■ エンジンルーム

	ヒューズ名称	アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	EFI NO. 2	10 A	EFI システム
2	EFI NO. 1	10 A	EFI システム
3	H-LP RH HI	10 A	右側ヘッドライト（ハイビーム）
4	H-LP LH HI	10 A	左側ヘッドライト（ハイビーム）
5	H-LP RH LO	15 A	右側ヘッドライト（ロービーム）
6	H-LP LH LO	15 A	左側ヘッドライト（ロービーム）
7	ETCS	10 A	電子制御スロットル
8	TURN-HAZ	10 A	方向指示灯兼非常点滅灯
9	AM2 NO. 2	7.5 A	パワースイッチ
10	AM2	30 A	スマートエントリー&スタートシステム
11	STRG LOCK	20 A	ステアリングロック
12	IG2 NO.2	7.5 A	始動系
13	ECU-B2	10 A	エアコン、パワーウインドウ
14	ECU-B	10 A	メインボデー ECU、メーター、ETC

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	RAD NO. 1	15 A	オーディオ、 ナビゲーションシステム
16	DOME	10 A	室内灯
17	EFI MAIN	20 A	EFI システム、EFI NO. 1、EFI NO. 2
18	HORN	10 A	ホーン
19	IG2	15 A	EFI システム、始動系、スマートエントリー&スタートシステム、IG2 NO.2、IGN、メーター
20	FR DEICER	20 A	フロントワイパーデアイサー
21	PSB	30 A	プリクラッシュシートベルト
22	IGT/INJ	15 A	EFI システム、始動系

■ 助手席足元

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
1	TAIL	10 A	車幅灯、尾灯、番号灯、フロントフォグライト、光軸調整スイッチ、メーター照明、EFI システム
2	PANEL	7.5 A	スイッチ照明、メーター照明、ステアリングスイッチ
3	FR DOOR	20 A	パワーウインドウ
4	RL DOOR	20 A	パワーウインドウ
5	RR DOOR	20 A	パワーウインドウ
6	SUNROOF	20 A	未使用
7	CIG	15 A	アクセサリーソケット
8	ACC	7.5 A	電動ミラー、ナビゲーションシステム、シフトロックシステム、メインボデー ECU、ETC
9	MIR HTR	10 A	ミラーヒーター
10	RR FOG	7.5 A	リヤフォグランプ
11	IGN	7.5 A	ステアリングロック、SRS エアバッグシステム、メインボデー ECU、EFI システム
12	METER	7.5 A	メーター
13	SEAT HTR	15A	シートヒーター
14	HTR-IG	10 A	エアコン、リヤウインドウデフォッガー

ヒューズ名称		アンペア数	ヒューズの受け持つ主な装置名称
15	WIPER	25 A	フロントワイパー
16	RR WIPER	15 A	未使用
17	WASHER	15 A	ウォッシャー
18	ECU-IG NO. 1	10 A	自動光軸調整システム、メインボデーECU、電動パワーステアリング、電動クーリングファン、シフトロックシステム、ABS、VSC、EFI システム
19	ECU-IG NO. 2	10 A	後退灯、オルタネーター、リヤウインドウデフォッガー、エアコン
20	OBD	7.5 A	ダイアグノーシスコネクター
21	STOP	10 A	制動灯、ハイマウントストップライト、ABS、VSC、メインボデーECU、EFI システム
22	DOOR	25 A	パワードアロックシステム
23	ACC-B	25 A	CIG、ACC
24	4WD	7.5 A	未使用
25	FR FOG	15 A	フロントフォグライト
26	AM1	7.5 A	始動系、スマートエントリー＆スタートシステム

知識

■ヒューズを交換したあと

●交換してもライト類が点灯しないときは、電球を交換してください。(→P. 204)

●取り替えても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

●規定容量以外のヒューズまたはヒューズ以外のものを使用しないでください。

●ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。

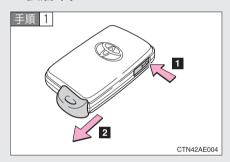
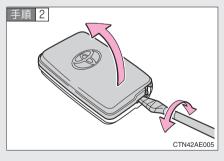
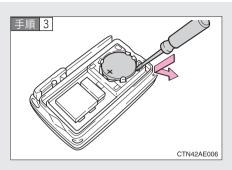
■ 用意するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

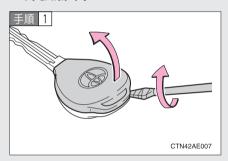
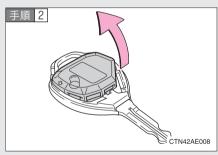
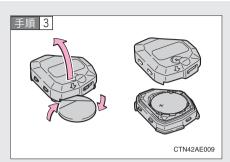
手順 1

メカニカルキーを抜く

手順 2

カバーをはずす

消耗した電池を取り出す

新しい電池は ＋ 極を上にして取り付けます。

■ 電池交換のしかた（スマートエントリー＆スタートシステム非装着車）

カバーをはずす

モジュールを取り出す

コインを使ってモジュールカバーをはずし消耗した電池を取り出す

新しい電池は + 極を上にして取り付けます。

知識

■電池が消耗していると

以下のような状態が起こります。

●スマートエントリー&スタートシステム、ワイヤレス機能が作動しない

●作動距離が短くなる

■リチウム電池 CR1632（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、CR2016（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）の入手

電池はトヨタ販売店、時計店およびカメラ店などで購入できます。

警告

■取りはずした電池と部品について

お子さまにさわらせないでください。
部品が小さいため、誤って飲み込むと、のどなどにつまらせ重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

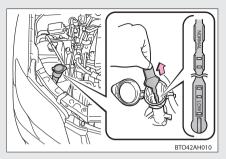
注意

■**交換後、正常に機能させるために**

以下のことを必ずお守りください。

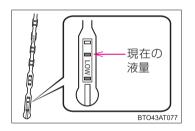
- ぬれた手で電池を交換しない
  錆の原因になります。
- 電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない
- 電極を曲げない
- ドライバーやコインなどにテーピングをしたり布きれをあててからはずしてください。
  カバーに傷が付くおそれがあります。

ウォッシャー液の補給

BTO42AH010

液面が LOW の位置に近づいたらウォッシャー液を補給する

知識

■ゲージの使い方

BTO43AT077

ウォッシャー液の膜が張っているゲージの穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわった（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補給してください。

警告

■ウォッシャー液を補給するときは

エンジンが熱いときやエンジンがかかっているときは、ウォッシャー液を補給しないでください。ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、エンジンなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■**ウォッシャー液について**

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水やエンジン不凍液などを入れないでください。
車体の塗装にしみが付くおそれがあります。

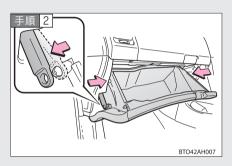
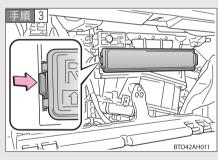
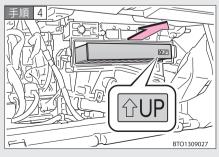
■**ウォッシャー液の薄め方**

必要に応じて水で薄めてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

■ 交換のしかた

手順 1 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ LOCK ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にする

グローブボックスを開きダンパーステーのピンをはずし、グローブボックスを持ち上げ下部のツメをはずして取りはずす

フィルターカバーを取りはずす

フィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

「↑ UP」マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■**清掃時期**

15,000km[7,500km※] ごと（オートエアコン装着車）

■**交換時期**

20,000km[10,000km※] ごと（マニュアルエアコン装着車）

30,000km[15,000km※] ごと（オートエアコン装着車）

※大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

■**エアコンの風量が減少したときは**

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■**エアコンを使用するときの注意**

フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因となることがあります。必ずフィルターを装着してください。

■**フィルターについて**

マニュアルエアコン装着車のフィルターは交換するタイプです。
水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

トラブルが起きたら

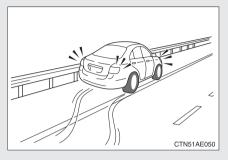
5

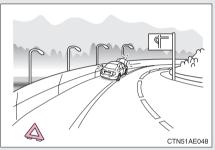
5-1. まず初めに

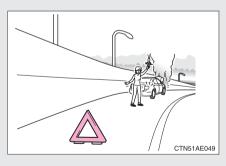
5-2. 緊急時の対処法

故障したときは

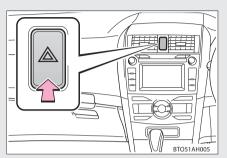
故障のときは速やかに下記の指示に従ってください。

CTN51AE050

非常点滅灯を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車します。(→P. 233)
非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

CTN51AE048

高速道路や自動車専用道路では、車両後方に停止表示板または停止表示灯を置いてください。(法的にも義務付けられています。)

CTN51AE049

緊急を要するときは発炎筒で合図します。(→P. 234)

非常点滅灯

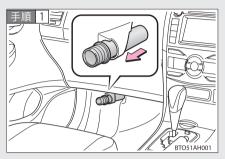
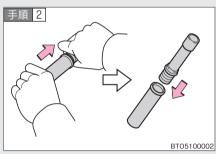
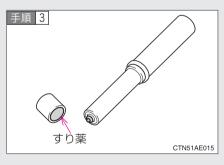
事故や故障のときなどにお使いください。

スイッチを押すとすべての方向指示灯が点滅し、もう一度押すと消灯します。

注意

■バッテリーあがりを防ぐために

エンジン停止中に非常点滅灯を長時間使用しないでください。

発炎筒

事故や故障のときなど、緊急時にお使いください。
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してお使いください。

助手席足元の発炎筒を取り出す

本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

先端のふたを取り、すり薬と発炎筒の先端をこすり、着火させる

知識

■発炎筒の有効期限

表示してある有効期間が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。

警告

■**発炎筒が使用できない場所**

以下の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■**発炎筒の取り扱いについて**

以下のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近づけたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

けん引について

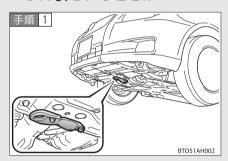
けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

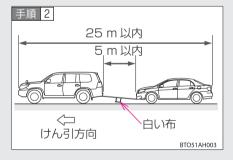
■ けん引する前に

以下の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店へご連絡ください。

● エンジンはかかるが、車が動かない

● 異常な音がする

■ けん引されるときは

車体に傷がつかないようにロープをけん引フックにかける

前進方向でけん引してください。

ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3 m 平方（30 cm × 30 cm）以上

手順 3 けん引される車両のエンジンをかける

▶ スマートエントリー&スタートシステム装着車

エンジンがかからないときは、“ エンジン スタート ストップ ”スイッチをアクセサリーモードまたはイグニッション ON モードにします。

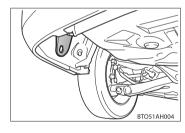
▶ スマートエントリー&スタートシステム非装着車

エンジンがかからないときは、エンジン スイッチを “ ACC ” または “ ON ” にします。

手順 4 けん引される車両のシフトレバーを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

けん引中は、前の車の制動灯に注意しロープをたるませないようにしてください。

知識

■寒冷地仕様車の固縛用フック (リヤ)

緊急用フックとしても使用できます。雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったときに緊急的に他車に引っ張り出してもらうときに使用するものです。他車をけん引することはできません。

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引されるときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

警告

■車両を運搬するときは

必ず４輪接地または、４輪とも持ち上げた状態で運搬してください。
駆動装置が焼き付きを起こしたり、車が台車から飛び出すおそれがあります。また、駆動系部品が故障したと思われるときは必ず４輪を持ち上げて運搬してください。

■けん引中の運転について

●けん引をおこなうときは細心の注意を払ってください。けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進やまちがった車両操作は避けてください。
けん引フックやロープが破損するおそれがあります。万一の場合、その破片が周囲の人などに当たり、重大な傷害を与えるおそれがあり危険です。

●“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを“LOCK”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にしないでください。
ハンドルがロックされハンドル操作ができなくなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●けん引される車は、慎重に運転してください。エンジンが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドルが通常より重くなります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●けん引するときは以下のことを必ずお守りください。
- ワイヤーロープは使用しない
- 速度 30 km/h 以下、距離 80 km 以内でけん引する
- 前進方向でけん引する
- サスペンション部などにロープをかけない

●この車で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。駆動系部品などに重大な損傷をあたえるおそれがあります。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車でけん引してください。レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

イベントデータレコーダー

お車には、最適な車両性能を維持する為のコンピューターを搭載しています。このコンピュータは、システムが正常に作動していることを診断するとともに、衝突のときや衝突に近い状態のときのデータを記録をするイベントデータレコーダー（EDR）を装備しています。

記録するデータ

エアバッグコンピュータに搭載しているイベントデータレコーダーが、衝突のときや衝突に近い状態のときに下記のデータを記録します。

- エンジンの回転数
- 車速
- ブレーキペダルの操作状況
- アクセルペダルの操作状況
- オートマチックトランスミッションのシフトポジション
- 助手席乗員の有無
- 運転者および助手席乗員のシートベルト装着の有無
- 運転席のシート位置
- エアバッグ作動に関する情報
- エアバッグシステムの故障診断情報

イベントデータレコーダーは会話などの音声や映像は記録しません。
（車種等により記録されるデータは異なります。）

データの開示について

トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、イベントデータレコーダーに記録されたデータを、車の研究開発を目的に取得・流用することがあります。なお、トヨタおよびトヨタが委託した第三者は、取得したデータを以下の場合を除き、第三者へ開示・提供することはありません。

- お車の使用者の同意がある場合
- 裁判所命令などの法的強制力のある要請に基づく場合
- 統計的な処理をおこなうなどの使用者や車が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告はブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
(!)	**ブレーキ警告灯（警告ブザー）※** ・ブレーキ液の不足 パーキングブレーキが解除されていないときも点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

※パーキングブレーキ未解除走行時警告ブザー：
パーキングブレーキを解除しないまま車を発進させ、車速が 10km/h 以上になると、警告ブザーが鳴ります。
警告ブザーが鳴ったときは、パーキングブレーキを解除してください。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車へのダメージや思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告灯	警告灯名・警告内容
- +	**充電警告灯** 充電系統の異常
	油圧警告灯 エンジンオイルの圧力異常

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯	警告灯名・警告内容
	エンジン警告灯 ・エンジン電子制御システムの異常 ・電子制御スロットルの異常 ・オートマチックトランスミッション電子制御システムの異常
	SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ・SRS エアバッグシステムの異常 ・プリテンショナー付シートベルトシステムの異常
ABS	**ABS &ブレーキアシスト警告灯（VSC 装着車）** ・ABS の異常 ・ブレーキアシストの異常
	ABS 警告灯（VSC 非装着車） ・ABS の異常
	パワーステアリング警告灯 ・EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常
PCS	**PCS 警告灯＊** プリクラッシュセーフティシステムの異常 システムの異常時以外にも、警告灯が次のように作動します。 ・システムの作動時には、速い点滅でお知らせします。（→P. 146） ・プリクラッシュブレーキを OFF にすると点滅します。（→P. 146） ・システムが一時的に使用できないときに点滅します。（→P. 250）
	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯＊ ・自動光軸調整システムの異常

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容
CRUISE （点滅）	**レーダークルーズコントロール表示灯＊** ・レーダークルーズコントロールシステムの異常

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	半ドア警告灯 いずれかのドアが確実に閉まっていない	**全ドアを閉める**
（タコメーター装着車）	**燃料残量警告灯** 燃料の残量（8L 以下）	**燃料を補給**
（タコメーター非装着車）		

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告灯	警告灯名・警告内容	対処方法
	運転席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）※ 運転席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
PASSENGER	**助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー）**※ 助手席シートベルトの非着用	**シートベルトを着用**
	マスターウォーニング* システムの異常時にブザーとともに点灯・点滅しマルチインフォメーションディスプレイ上に警告メッセージを表示します。	→P. 246

※ **運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：**
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が約 20 km/h 以上になると警告ブザーが 30 秒間断続的に鳴ります。その後も運転席・助手席シートベルト非着用のままだと、ブザーの音が変わり 90 秒間鳴ります。

知識

■助手席シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅することがあります。
- 座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

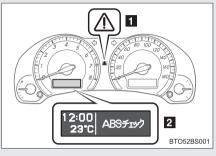
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告灯が消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告灯	警告内容	対処方法
1回	なし	（8秒間点灯）	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1回	3回		電子キーを携帯していない状態かつ“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
1回	3回	（オートマチック車）	電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または 電子キーを携帯する
連続	連続	（オートマチック車）	電子キーを携帯していない状態かつシフトレバーが P 以外の状態で“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	シフトレバーを P にする または 電子キーを携帯する

警告メッセージが表示されたときは（オプティトロンメーター）

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示された場合は、落ち着いて以下のようにご対処ください。

1 マスターウォーニングライト

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているとき点灯・点滅します。

2 マルチインフォメーションディスプレイ

処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。

ただちに停車してください。走行を続けると危険です。

以下の警告は、ブレーキの故障のおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
12:00 23℃ ブレーキチェック ⚠	**ブレーキ液の不足** **ブレーキ倍力装置系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに停車してください。

以下の警告は、お車への損傷や思わぬ危険を招くおそれがあることを意味します。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。

警告メッセージ	警告内容
12:00 23℃ エンジン油圧不足	**エンジンオイル圧力の異常** エンジンオイルの圧力が異常に低いと警告ブザーが鳴ります。
12:00 23℃ 充電系チェック	**充電系統の異常** 警告ブザーが鳴ります。

ただちに点検を受けてください。

以下の警告は、放置すると、システムが正しく働かず、思わぬ危険や故障を招くおそれがあることを意味します。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

警告メッセージ	警告内容
12:00 23℃ ステアリングロック確認 ⚠	**ステアリングロックシステムの異常**
12:00 23℃ ABSチェック ⚠	**ABS/ ブレーキアシストの異常** 警告ブザーが鳴ります。
12:00 23℃ エアバッグチェック ⚠	**SRS エアバッグ / プリテンショナー付シートベルトシステムの異常** 警告ブザーが鳴ります。

警告メッセージ	警告内容
12:00 23°C エンジン チェック	**エンジン電子制御システム、電子制御スロットル、オートマチックトランスミッション電子制御システム*の異常** 警告ブザーが鳴ります。
12:00 23°C VSCチェック	**TRC、VSC *の異常** 警告ブザーが鳴ります。
12:00 23°C PCS システムチェック PCS	**PCS(プリクラッシュセーフティシステム) *の異常** 警告ブザーが鳴ります。
12:00 23°C クルーズシステム チェック CRUISE（点滅）	**レーダークルーズコントロールシステム*の異常** 安全な場所にお車を停め、エンジンを再度かけなおしてレーダークルーズコントロールシステムを再セットしてください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ただちに処置してください。

以下の警告はそれぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

警告メッセージ	警告内容	対処方法
12:00 23℃	**各ドアが確実に閉まっていない** 開いてるドアが表示されます。	各ドアを閉める
12:00 23℃	**トランクが確実に閉まっていない**	トランクを閉める
12:00 23℃ パーキングブレーキ 未解除	**パーキングブレーキをかけたまま、車速が 10 km/h を超えた** 警告ブザーが鳴ります。	パーキングブレーキを解除する
12:00 23℃ PCS 現在使用できません PCS（点滅）	**PCS（プリクラッシュセーフティシステム）*が現在機能していない** ブザーが鳴ります。	グリルまたはセンサーの汚れを取りのぞく プリクラッシュセーフティシステムが熱くなると点灯します。この場合はシステムが通常温度になるまでしばらくお待ちください。

＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
12:00 23℃ レーダー汚れ 清掃必要 CRUISE（点滅） ⚠	**レーダークルーズコントロール*のセンサー部分の汚れ、氷などの付着** 警告ブザーが鳴ります。	汚れおよび氷などを取りのぞく
12:00 23℃ 悪天候 クルーズ できません CRUISE（点滅） ⚠	**レーダークルーズコントロール*の車間制御の測定不可** 警告ブザーが鳴ります。	ワイパーを止めるか低速作動にかえる
12:00 23℃ RADAR 100km/h （点滅） ⚠	**（レーダークルーズコントロール*の車間制御中）衝突の危険性がある** 警告ブザーが鳴ります。	ブレーキを踏む
12:00 23℃ ブレーキ PCS（速い点滅）	**プリクラッシュブレーキ*が作動していることを示す**	ブレーキで減速する

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

警告メッセージ	警告内容	対処方法
12:00 23℃ 給油して下さい ⚠	**燃料の不足** 警告ブザーが鳴ります。	燃料残量を点検し、燃料を補給する DISP ボタンを長押しすることで、表示を消すことができます。

知識

■レーダークルーズコントロールの車間制御中の警告表示について

車間距離が短くても、以下のような場合は警告メッセージが表示されないおそれがあります。

- ●先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- ●先行車が非常にゆっくりした車のとき
- ●速度を設定した直後
- ●アクセルが踏まれたとき

ただちに処置してください（スマートエントリー&スタートシステム装着車）

それぞれの対処方法に従って処置し、警告メッセージが消灯するのを確認してください。

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
1 回	なし	12:00 23°C キーが見つかりません （8 秒間点灯）	電子キーを携帯していない状態でエンジンをかけようとした	電子キーを携帯する
1 回	3 回	12:00 23°C キーが見つかりません	電子キーを携帯していない状態かつ、“エンジン スタート ストップ”スイッチが OFF 以外の状態で運転席以外のドアが開閉された	電子キーを携帯する
		12:00 23°C キーが見つかりません （オートマチック車）	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーが P の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にせずに運転席ドアが開閉された	“エンジン スタート ストップ”スイッチを OFF にする または 電子キーを携帯する

車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
連続音	**連続音**	12:00 23°C Pレンジに入れて下さい 12:00 23°C キーが見つかりません （オートマチック車） （交互に表示）	電子キーを携帯していない状態かつ、シフトレバーがP以外の状態で、“エンジン スタート ストップ”スイッチをOFFにせずに運転席ドアが開閉された	・シフトレバーをPにする ・電子キーを携帯する
1回	**なし**	12:00 23°C キーバッテリ残りわずか	電子キーの電池残量が少ない	新しい電池と交換する。 （→P. 223）
1回	**なし**	12:00 23°C 始動時はブレーキを踏んで下さい	“エンジン スタート ストップ”スイッチがOFFの状態でいずれかのドアを開閉してからエンジンをかけずに“エンジン スタート ストップ”スイッチをアクセサリーモードに2回した	ブレーキを踏んで“エンジン スタート ストップ”スイッチを押す

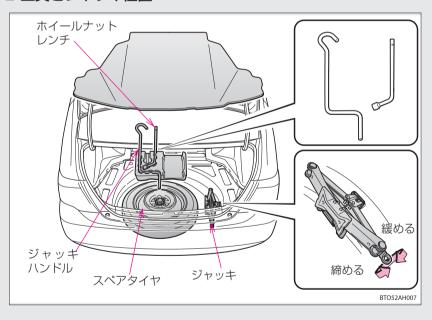
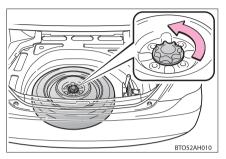
車内警告ブザー	車外警告ブザー	警告メッセージ	警告内容	対処方法
なし	なし	12:00 23℃ ステアリングロック未解除 ⚠	“エンジン スタート ストップ” スイッチを押してから約 3 秒以内にステアリングロックが解除できなかった	ブレーキを踏んでハンドルを左右にまわしながら “エンジン スタート ストップ” スイッチを押す

パンクしたときは

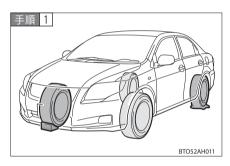
パンクしたタイヤを、備え付けのスペアタイヤと交換してください。
（タイヤについての詳しい説明は、P. 197 をご覧ください。）

■ ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らな場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- オートマチック車はシフトレバーを P に入れる
- マニュアル車はシフトレバーを R に入れる
- エンジンを止める
- 非常点滅灯を点滅させる

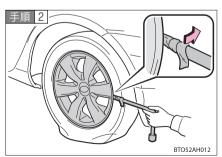
■ 工具とジャッキ位置

応急用タイヤの取り出し方

止め具をはずし、タイヤを取り出す

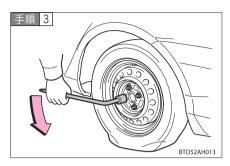
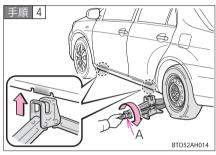
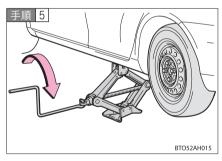
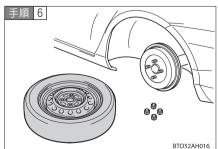
パンクしたタイヤの交換

手順 1

輪止め※をする

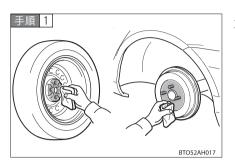
パンクしたタイヤ		輪止めの位置
前輪	**左側**	**右側後輪うしろ**
	右側	**左側後輪うしろ**
後輪	**左側**	**右側前輪前**
	右側	**左側前輪前**

※輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

手順 2

ホイールキャップをはずす *

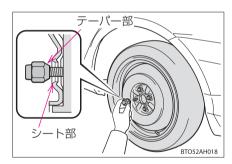
* スチールホイールのみ

ナットを少し（約 1 回転）緩める

ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

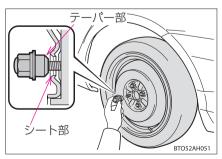
タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの意匠面に傷がつかないよう意匠面を上にする。

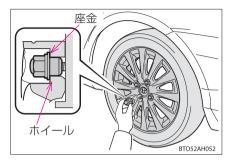
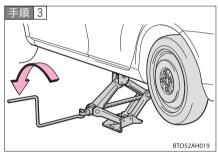
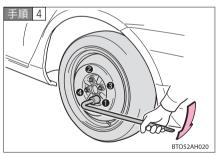
タイヤの取り付け

手順 1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットが緩み、タイヤがはずれるおそれがあります。

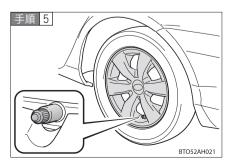
手順 2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

▶ スチールホイールからスチールホイールにかえるとき（応急用タイヤを含む）

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールから応急用タイヤにかえるとき

ナットのテーパー部がホイールのシート部に軽くあたるまでまわす

▶ アルミホイールからアルミホイールにかえるとき

ナットの座金がホイールにあたるまで仮締めする。

車体を下げる

図の番号順でナットを2、3度しっかり締めつける

締めつけトルク：

103 N・m (1050 kgf・cm)

ホイールキャップを取り付ける *

タイヤのバルブ (空気口) に切り欠きを合わせてホイールキャップを確実に取り付ける。

* スチールホイールのみ（応急用タイヤに取り付けることはできません）

手順 6 すべての工具・ジャッキ・パンクしたタイヤを収納する

知識

■応急用タイヤについて

- タイヤの側面に TEMPORARY USE ONLY と書かれています。応急用にのみお使いください。
- 空気圧を必ず点検してください。(→P. 288)

警告

■ジャッキの使用について

ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して死亡またはけがにつながるおそれがあります。
以下のことをお守りください。

- ジャッキはタイヤ交換、タイヤチェーン取り付け、取りはずし以外の目的で使用しない
- 備えつけのジャッキは、お客様の車にしか使うことができないため他の車に使ったり、他の車のジャッキをお客様の車に使わない
- ジャッキセット位置に正しくジャッキがかかっていることを確かめる
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- ジャッキで支えられている状態で、エンジンをかけたり走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものをのせない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐりこんで作業する場合はジャッキスタンドを使用する

車両を下げる際は特に、ご自身や周囲の人がけがをしないよう注意してください。

警告

■**タイヤ交換について**

けがを負う危険を減らすため、以下のことを必ずお守りください。

●走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれない
走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●ホイールの交換後はすぐに 103 N・m（1050 kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

●ナットを取り付けるときは、必ずテーパー部を内側にして取り付ける（→P. 199）

上記のことを守らないとナットが緩み、ホイールがはずれ落ち、死亡や重症を負う事故につながるおそれがあります。

■**応急用タイヤを使用するときは**

●お客様のお車専用になっているため、他の車には使用しないでください

●同時に２つ以上のスペアタイヤを使用しないでください

●できるだけ早く通常のタイヤと交換ください

●急加速、急ブレーキ、急減速、急旋回はお避けください

■**応急用タイヤ使用時の速度制限**

応急用タイヤを装着しているときは、100 km/h 以上の速度で走行しないでください。
応急用タイヤは、高速走行に適していないため、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■応急用タイヤ装着中は

正確な車両速度が検出できない場合があり、下記のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ABS

●ブレーキアシスト

●VSC *

●TRC *

●レーダークルーズコントロール*

●プリクラッシュセーフティーシステム*

●ナビゲーションシステム*

●バックガイドモニター*

●インテリジェントパーキングアシスト*

●NAVI・AI-SHIFT *

また、下記のシステムは、性能が十分に発揮できないばかりでなく、駆動系部品に悪影響を与えるおそれがあります。

●4WD システム*

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

⚠注意

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。
短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほどの損傷になります。

■応急用タイヤ装着中は段差に注意

応急用タイヤ装着中は、標準タイヤの装着時に比べ車高が低くなっています。段差を乗り越えるときはご注意ください。

■応急用タイヤ使用時のタイヤチェーン装着

応急用タイヤには、タイヤチェーンを装着しないでください。
タイヤチェーンが車体側に当たり、走行に悪影響をおよぼすおそれがあります。
雪道、凍結路で前輪がパンクした場合は、応急用タイヤを前輪として使用せず、後輪に使用し、はずした後輪を前輪につけてからタイヤチェーンを装着してください。

エンジンがかからないときは

正しいエンジンのかけ方（→P. 93, 97）にしたがっても、エンジンがかからないときは、以下のことをご確認ください。

■ スターターは正常にまわっているのにエンジンがかからない場合

以下の原因が考えられます。

● 燃料が入っていない可能性があります。
給油してください。

● 燃料を吸い込みすぎている可能性があります。
再度、正しい手順（→P. 93, 97）にしたがって、エンジンをかけてください。

● エンジンイモビライザーシステム*に異常がある可能性があります。
（→P. 61）

■ スターターがゆっくりまわる／室内灯・ヘッドライトが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 272）

● バッテリーのターミナルが緩んでいる可能性があります。

■ スターターがまわらない／室内灯・ヘッドライトが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

以下の原因が考えられます。

● バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。

● バッテリーあがりの可能性があります。（→P. 272）

● ステアリングロックシステムに異常がある可能性があります。

処置のしかたがわからないとき、あるいは処置をしてもエンジンがかからないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

緊急時エンジン始動（スマートエントリー＆スタートシステム装着車）

通常のエンジン始動操作でエンジンが始動しないときは、以下の手順でエンジンが始動する場合があります。緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

▶ オートマチック車

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 シフトレバーを P に入れる

手順 3 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 4 ブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続ける

▶ マニュアル車

手順 1 正しい運転姿勢（→P. 62）がとれるようにシートの位置を調整し、ペダルの各位置を確認する

手順 2 パーキングブレーキをかける

手順 3 シフトレバーを N に入れる

手順 4 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモードにする

手順 5 クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏みながら、約 15 秒間 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチを押し続ける

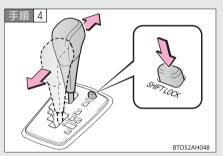
上記の手順にしたがいエンジンが始動できても、システムが故障しているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

シフトレバーがシフトできないときは＊

ブレーキペダルを踏んだ状態でシフトレバーがシフトできない場合、シフトロックシステム（シフトレバーの誤操作を防ぐ装置）などの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。ただし一時的な処置として、以下の方法でシフトレバーをシフトすることができます。

手順 1 パーキングブレーキをかける

手順 2 “ エンジン スタート ストップ ” スイッチをアクセサリーモード（スマートエントリー&スタートシステム装着車）、またはエンジン スイッチを “ ACC ”（スマートエントリー&スタートシステム非装着車）にする

手順 3 ブレーキペダルを踏む

シフトロック解除ボタンを押す

ボタンを押している間はレバーをシフトできます。

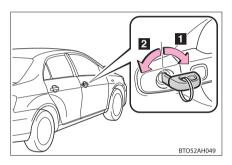
＊：車両型式などで異なる装備やオプション装備

キーを無くしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいキーを作ることができます。(→P. 18)

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P. 28）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー&スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、以下の手順でドアを開けたり、エンジンを始動することができます。

ドアの解錠・施錠

BTO52AH049

メカニカルキー（→P. 18）を使ってドアを解錠・施錠する

1 全ドア施錠

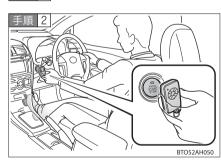
2 全ドア解錠

モードの切りかえ、エンジン始動の方法

▶ オートマチック車

手順 1 シフトレバーが P の状態でブレーキペダルを踏む。

手順 2

BTO52AH050

電子キーのトヨタエンブレム面で“ エンジン スタート ストップ ”スイッチにふれる

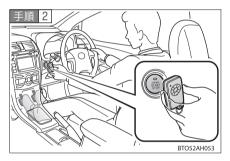
この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー&スタートシステムが“ エンジン スタート ストップ ”スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルから足を離して " エンジン スタート ストップ " スイッチを押します。" エンジン スタート ストップ " スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 93)
エンジン始動：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、ブレーキペダルをしっかり踏み込んで " エンジン スタート ストップ " スイッチを押します。

▶ マニュアル車

手順 1 シフトレバーが N の状態でクラッチペダルとブレーキペダルを踏む

手順 2

BTO52AH053

電子キーのトヨタエンブレム面でエンジンスイッチにふれる

この操作中にいずれかのドアが開閉されると、スマートエントリー＆スタートシステムが " エンジン スタート ストップ " スイッチにふれた電子キーを正しく検知できず警告音が鳴ります。

手順 3 モードの切りかえ：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、クラッチペダルとブレーキペダルから足を離して " エンジン スタート ストップ " スイッチを押します。" エンジン スタート ストップ " スイッチを押すごとにモードが切りかわります。(→P. 93)
エンジン始動：ブザーが鳴ってから 5 秒以内に、クラッチペダルとブレーキペダルをしっかり踏み込んで " エンジン スタート ストップ " スイッチを押します。

前頁や上記の処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店に連絡してください。

知識

■エンジン停止のしかた

通常のエンジン停止のしかたと同様、シフトレバーを P にして “エンジン スタート ストップ” スイッチを押します。（オートマチック車）

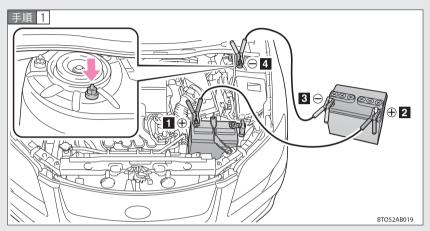
■電池交換について

前頁のエンジン始動の方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をお勧めします。（→P. 223）

バッテリーがあがったときは

バッテリーがあがった場合、以下の手順でエンジンを始動することができます。

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付救援車があれば、以下の手順にしたがって、エンジンを始動させることができます。

手順 1

バッテリーの＋端子のカバーをはずし、ブースターケーブルを次の順につなぐ

1 赤色のブースターケーブルを自車のバッテリーの＋端子につなぐ
2 赤色のブースターケーブルのもう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子につなぐ
3 黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子につなぐ
4 黒色のブースターケーブルのもう一方の端をバッテリーから離れた、未塗装の金属部（図に示すような固定された部分）につなぐ

手順 2 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車のバッテリーを充電する

手順 3 スマートエントリー&スタートシステム装着車は、“ エンジンスタート ストップ ” スイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

手順 4 救援車のエンジン回転を維持したまま、次の操作をしてから自車のエンジンをかける

▶ スマートエントリー＆スタートシステム装着車

“エンジン スタート ストップ”スイッチをいったんイグニッションON モードにします。

▶ スマートエントリー＆スタートシステム非装着車

エンジン スイッチをいったん“ON”にします。

手順 5 自車のエンジンが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

エンジンがかかっても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■バッテリーがあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■バッテリーあがりを防ぐために

- ●エンジンがかかっていないときは、ライトやエアコンの電源を切ってください。
- ●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■バッテリーがあがったときは

コンピューターに記憶されている情報が消去されます。バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

■バッテリーの充電について

バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、バッテリーがあがってエンジンを始動できなくなるおそれがあります。（バッテリーは走行中に自動で充電されます）

警告

■バッテリーの引火または爆発を防ぐために

バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、以下のように火や火花が発生するようなことをしないでください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に誤って接触させない

●ブースターケーブルは“＋”と“－”の端子を絶対に接触させない

●バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■バッテリーの取り扱いについて

バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、以下のことを必ずお守りください。

●バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、液(酸)が皮膚･衣服･車体につかないようにする

●バッテリーに寄りかかったりしない

●誤ってバッテリー液が身体についたり目に入った場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診断を受ける
また、医師の診断を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく

●バッテリーの支柱、ターミナル、その他の関連部品の取り扱い後は手を洗う

●お子さまをバッテリーに近づけない

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分注意してください。

オーバーヒートしたときは

オーバーヒートしたときは：

手順 1 車を安全な場所に止め、エアコンを止める

手順 2 エンジンルームから蒸気が出ているか確認する

蒸気が出ている場合：

エンジンを止める。蒸気が出なくなったら、注意してボンネットを開け、エンジンを再始動する

蒸気が出ていない場合：

エンジンをかけたまま注意してボンネットを開ける

手順 3 ラジエーター冷却用のファンが作動しているか確認する

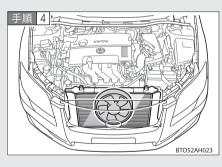
ファンが作動している場合：

水温計の針が下がってきてからエンジンを止める

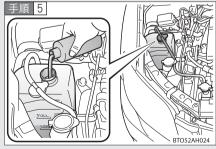
ファンが作動していない場合：

すぐにエンジンを止めて、トヨタ販売店に連絡する

手順 4

BTO52AH023

エンジンが十分に冷えてから、冷却水の量やラジエーターコア部（放熱部）の冷却水漏れを点検する

手順 5

BTO52AH024

冷却水が不足している場合は、冷却水を補給する

冷却水が無い場合は、応急措置として水を補給する。

早めに最寄りのトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■オーバーヒートとは

以下の状態がオーバーヒートです。

- 水温計の針がレッドゾーンに入ったり、エンジン出力が低下する
- エンジンルームから蒸気が出る

警告

■エンジンルーム点検中の事故やけがを防ぐために

- エンジンルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。エンジンルーム内が高温になっているため、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。
- エンジン及びラジエーターが熱いうちはラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出し、やけどなどの重傷を負うおそれがあります。

注意

■冷却水を入れるときの注意

エンジンが十分に冷えてから入れてください。
冷却水はゆっくり入れてください。
エンジンが熱いときに急に冷たい冷却水をいれると、エンジンが損傷するおそれがあります。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地、雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは以下の方法で脱出してください。

手順 1 エンジンを停止する

パーキングブレーキをかけシフトレバーをオートマチック車はP、マニュアル車は N にしてください。

手順 2 タイヤの前後の土や雪を取り除く

手順 3 タイヤの下に木や石をあてがう

手順 4 エンジンを再始動する

手順 5 シフトレバーをオートマチック車は D または R、マニュアル車は 1 または R に確実に入れ、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルを踏む

警告

■脱出するときの警告

前進と後退を繰り返してスタックから脱出する場合、他の車、物または人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するときは（オートマチック車）

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気をつけてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷をさけるために

- タイヤが空転するのを避け、エンジンを空ぶかししないでください。
- この方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、以下の手順で車両を停止させてください。

手順 1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける。

ブレーキペダルを繰り返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

手順 2 シフトレバーを N に入れる。

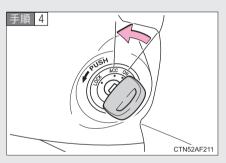
▶ シフトレバーが N に入った場合

手順 3 減速後、車を安全な道路脇に停める。

手順 4 エンジンを停止する。

▶ シフトレバーが N に入らない場合

手順 3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる。

手順 4

スマートエントリー&スタートシステム非装着車：エンジン スイッチを “ ACC ” にして、エンジンを停止する。

スマートエントリー&スタートシステム装着車：“ エンジン スタート ストップ ”スイッチを 3 秒以上押し続けてエンジンを停止する。

手順 5 車を安全な道路脇に停める。

警告

■走行中にやむを得ずエンジンを切るときは

- ブレーキの効きが悪くなると共にハンドルが重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。エンジンを切る前に、十分に減速するようにしてください。
- スマートエントリー＆スタートシステム非装着車：キーを抜くとハンドルがロックされるため、キーは絶対に抜かないでください。

車両の仕様 6

6-1. 仕様一覧

6-2. カスタマイズ機能

メンテナンスデータ（油脂類の容量と銘柄）

使用するオイルの品質により、自動車の寿命は著しく左右されます。トヨタ車には最も適したトヨタ純正オイル・液類のご使用をおすすめします。トヨタ純正油脂以外を使用される場合は、それぞれの油脂に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

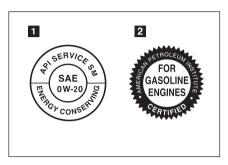
銘柄	容量 [L]（参考値）
無鉛レギュラーガソリン	50

エンジンオイル

<table>
<tr><th rowspan="2">銘柄</th><th rowspan="2">エンジン</th><th colspan="2">容量 [L]（参考値）</th></tr>
<tr><th>オイルのみ交換</th><th>オイルとオイルフィルター交換</th></tr>
<tr><td rowspan="2">トヨタ純正モーターオイル
SM 0W-20※
— API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 0W-20
トヨタ純正モーターオイル
SM 5W-30
— API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 5W-30
トヨタ純正モーターオイル
SM 10W-30
— API SM, EC/ILSAC　GF-4,
SAE 10W-30
トヨタ純正モーターオイル
SL 5W-20
— API SL, EC, SAE 5W-20
トヨタ純正モーターオイル
SL 10W-30
— API SL, EC SAE 10W-30</td><td>1NZ-FE</td><td>3.4</td><td>3.7</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE</td><td>3.9</td><td>4.2</td></tr>
</table>

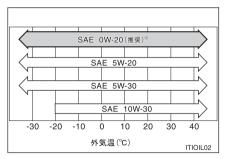
※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

■ 指定エンジンオイル

API 規格 SM/EC、SL/EC か、ILSAC 規格合格油をおすすめします。なお、ILSAC 規格合格油の缶には ILSAC CERTIFICATION（イルサック認証）マークがついています。

1 API マーク

2 ILSAC CERTIFICATION マーク

■ エンジンオイル推奨粘度

下記表に基づき、外気温に適した粘度のものをご使用ください。

※ 0W-20 は新車時に充填されている、最も省燃費性に優れるオイルです。

オイル粘度について：

- オイル粘度表示の0Wは、低温時のエンジン始動特性を示しています。W の前の数値が小さいほど冬場や寒冷時のエンジン始動が容易になります。
- 0W-20 の 20 は、オイル粘度の硬さを示しています。
  粘度の高いオイルは高速または重負荷走行に適しています。

ラジエーター

銘柄	エンジン	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 30%　　-12 ℃ 濃度 50%　　-35 ℃	1NZ-FE（オートマチック車）	5.8
	1NZ-FE（マニュアル車）	5.6
	2ZR-FAE	5.9

オートマチックトランスミッション

銘柄	エンジン	駆動方式	容量 [L]（参考値※）
トヨタ純正 CVT フルード　TC	1NZ-FE	FF（前輪駆動）	8.09
		4WD（4 輪駆動）	7.98
	2ZR-FAE	FF（前輪駆動）	8.11
		4WD（4 輪駆動）	7.98

※ 容量は参考値です。交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください。

マニュアルトランスミッション

銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正 MG ギヤオイルスペシャル Ⅱ (API GL-3 SAE 75W- 90)	1.9

リヤディファレンシャル（4WD 車のみ）

銘柄	容量 [L]（参考値）
トヨタ純正ハイポイドギヤオイル SX (API GL-5 SAE85W － 90)	0.5

トランスファー（4WD 車のみ）

銘柄	容量 [L] （参考値）
トヨタ純正ギヤオイルスーパー (API GL-5 SAE75W － 90)	0.9

ブレーキ

■ ブレーキフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ ブレーキペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間※	60 以上

※ エンジン回転時に 490 N (50 kgf) の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ パーキングブレーキ

項目	基準値（回数）
引きしろ 操作力 200 N (20.4 kgf) のときのノッチ※数	6 ～ 9

※ ノッチとは、パーキングブレーキをかけるときの節度（“カチッ” という音）のことです。

V リブドベルト

<table>
<tr><th>項目</th><th>エンジン</th><th>基準値 [mm]</th></tr>
<tr><td rowspan="2">たわみ量

押力 98N（10kgf）（冷間時）</td><td>1NZ-FE</td><td>12.5 ～ 13.5</td></tr>
<tr><td>2ZR-FAE</td><td>7.6 ～ 10</td></tr>
</table>

クラッチ

■ クラッチフルード

銘柄
トヨタ純正ブレーキフルード 2500H

■ クラッチペダル

項目	基準値 [mm]
遊び	5 ～ 15
切れたときの床板とのすき間※	25 以上

※クラッチが切れた位置からクラッチペダルを床いっぱいまで踏み込んだ位置までの動き量

ウォッシャー

容量 [L]（参考値）	2.5

タイヤ

タイヤサイズ		ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa (kg/cm^2)	
			前輪	後輪
標準タイヤ	185/65R15 88S	15 × 6 J	240 (2.4)	
	195/65R15 91S		210 (2.1)	
スペアタイヤ	T125/70D16 96M	16 × 4 T	420 (4.2)	
	T135/80D16 101M			

電球（バルブ）

電球		W（ワット）数
車外	ヘッドライト（ディスチャージヘッドライト装着車） ハイビーム（バルブタイプ：HB3） ロービーム（ディスチャージヘッドライト：D4S）	60 35
	ヘッドライト（ハロゲンヘッドライト装着車） ロービーム / ハイビーム（バルブタイプ：H4）	55/60
	車幅灯	5
	フロントフォグライト*（バルブタイプ：H11）	55
	フロント方向指示兼非常点滅灯	21
	サイド方向指示兼非常点滅灯（フェンダー部装着車）	5
	サイド方向指示兼非常点滅灯（ドアミラー部装着車）	LED ※
	リヤ方向指示兼非常点滅灯	21
	制動灯＆尾灯	21/5

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

電球		W（ワット）数
車外	後退灯	16
	ハイマウントストップライト	LED ※
	番号灯	5
車内	ルームライト	8
	パーソナルライト*	8
	ラゲージルームライト	3.8

※ LED は、Light Emitting Diodes（発光ダイオード）の略で、半導体発光電子素子です。

車両仕様

型式	エンジン	駆動方式
NZE141	1NZ-FE（1.5L ガソリン）	FF（前輪駆動）
NZE144		4WD（4 輪駆動）
ZRE142	2ZR-FAE（1.8L ガソリン）	FF（前輪駆動）
ZRE144		4WD（4 輪駆動）

*：車両型式などで異なる装備やオプション装備

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車には、設定を変更することが可能な数多くの装備がついています。トヨタ販売店で作動などをご希望の設定に変更することができます。

機能によっては、他の機能と連動して設定が変わるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

項目	機能の内容	初期設定	変更後
スマートエントリー&スタートシステム(→P. 20)	スマートエントリー&スタートシステム	あり	なし
	作動の合図(非常点滅灯)	あり	なし
	作動の合図(ブザー)	あり	なし
ワイヤレスドアロック(→P. 29)	ワイヤレス機能	あり	なし
	解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒
			120 秒
	作動の合図(非常点滅灯)	あり	なし
	作動の合図(ブザー)(スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ)	あり	なし
	半ドア警告ブザー(スマートエントリー&スタートシステム装着車のみ)	あり	なし
ライト自動点灯・消灯システム(→P. 125)	ライトセンサーの感度調整	レベル3	レベル1～5
	ライトを点灯するまでの時間	標準	長め

項目	機能の内容	初期設定	変更後
イルミネーション (→P. 171)	消灯までの時間	15 秒	7.5 秒
			30 秒
	解錠時の作動	あり	なし
	エンジンスイッチ OFF 後の作動	あり	なし

さくいん

アルファベット略語一覧

アルファベット略語	カタカナ表記
ABS	アンチロックブレーキシステム
ACC	アクセサリー
DISP	ディスプレイ
ECO	エコノミー／エコロジー
ECU	エレクトリックコントロールユニット
EDR	イベントデータレコーダー
EPS	エレクトリックパワーステアリング
INT	インターミッテント
LED	ライトエミッティングダイオード
PCS	プリクラッシュセーフティシステム
SRS	サプリメンタルレストレイントシステム
TRC	トラクションコントロール
VSC	ビークルスタビリティコントロール

五十音順さくいん

症状別さくいん

■警告灯一覧

警告灯	参照ページ	警告灯	参照ページ
ブレーキ警告灯	P. 241	運転席シートベルト非着用警告灯	P. 244
ABS& ブレーキアシスト警告灯	P. 242	PASSENGER 助手席シートベルト非着用警告灯	P. 244
燃料残量警告灯	P. 243	マスターウォーニング	P. 244
SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯	P. 242	パワーステアリング警告灯	P. 242
半ドア警告灯	P. 243	PCS　PCS 警告灯	P. 242
エンジン警告灯	P. 242	スマートエントリー&スタートシステム警告灯	P. 245
充電警告灯	P. 241	ディスチャージヘッドライトオートレベリング警告灯	P. 242
油圧警告灯	P. 241	CRUISE　レーダークルーズコントロール表示灯（点滅）	P. 243

警告メッセージが表示された

P. 246 警告メッセージが表示されたときは

警告音が鳴った

■警告灯の点灯、点滅、またはマルチインフォメーションディスプレイの警告メッセージを確認ください。

- 警告灯が点灯、点滅している（→P. 241）
- 警告メッセージが表示されている（→P. 246）

■警告灯の点灯、点滅や、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージの表示がないとき、または車外で警告音が鳴ったときは、以下のことを確認ください。

お車の状況	鳴ったときの状況	参照ページ
停車／駐車中	ドアを開けたとき	P. 26、30
	車外に出たとき	
	スマートエントリ＆スタートシステムでロックスイッチを押したとき	
走行中	シフトレバーを R にしたとき	P. 102
	シフトダウンしたとき	P. 102
	ブレーキを踏んだとき	P. 88

ガソリンスタンドでの情報

給油や交換などの際に必要になる項目をまとめてあります。

<table>
<tr><td>燃料の容量（参考値）</td><td colspan="3">50L</td></tr>
<tr><td>燃料の種類</td><td colspan="3">無鉛レギュラーガソリン　P. 58, 282</td></tr>
<tr><td rowspan="6">タイヤが冷えているときの空気圧</td><td colspan="3">標準タイヤ</td></tr>
<tr><td rowspan="2">タイヤサイズ</td><td colspan="2">空気圧 [kPa (kg/cm^2)]</td></tr>
<tr><td>前輪</td><td>後輪</td></tr>
<tr><td>185/65R15 88S</td><td colspan="2">240 (2.4)</td></tr>
<tr><td>195/65R15 91S</td><td colspan="2">210 (2.1)</td></tr>
<tr><td colspan="3">応急用タイヤ：420 (4.2) kPa (kg/cm^2)</td></tr>
<tr><td>エンジンオイル容量（参考値）</td><td colspan="3">オイルのみ交換時
　1NZ-FE：　3.4 L
　2ZR-FAE：3.9 L
オイルとフィルター交換時
　1NZ-FE：　3.7 L
　2ZR-FAE：4.2 L</td></tr>
<tr><td>エンジンオイルの種類</td><td colspan="3">トヨタ純正モーターオイル
・ SM 0W-20 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 0W-20)
・ SM 5W-30 (API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 5W-30)
・ SM 10W-30(API SM、EC/ILSAC GF-4、SAE 10W-30)
・ SL 5W-20 (API SL、EC、SAE 5W-20)
・ SL 10W-30(API SL、EC、SAE 10W-30)</td></tr>
</table>

お問い合わせ、ご相談は
下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

フリーコール **0800-700-7700**

オープン時間　365日　9：00～18：00

所在地　〒450－0002　名古屋市中村区名駅四丁目10の27
第二豊田ビル西館7階

「個人情報保護方針」については、
http://www.toyota.co.jpにて掲載しております。

トヨタ自動車株式会社
http://toyota.jp

カ-15

M　12E87
01999ー12E87
NAB-2011年 3 月25日
2011年 4 月 1 日　初版
カローラ アクシオ